

在宅介護実態調査報告書

令和5年3月

桑名市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査方法等	1
3	回収結果	1
4	集計分析にあたって	1
II	調査結果の分析	2
1	基本属性	2
(1)	性別・年齢	2
(2)	世帯類型	3
(3)	要介護度	4
(4)	認知症日常生活自立度	5
2	介護保険サービス等	7
(1)	介護保険サービスの利用状況	7
(2)	利用しているサービス	8
(3)	利用しているサービスの組み合わせ	9
(4)	要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	11
(5)	認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	12
(6)	施設等への入所・入居の検討状況	13
(7)	サービス利用の組み合わせと施設等への入所・入居の検討状況	14
(8)	サービスの利用回数と施設等への入所・入居の検討状況	16
(9)	要介護度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況	19
(10)	認知症自立度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況	20
(11)	介護者の就労状況別の施設等への入所・入居の検討状況	21
3	介護者の状況	22
(1)	家族・親族による介護の頻度	22
(2)	要介護度別・世帯類型別の家族・親族による介護の頻度	23
(3)	主な介護者の年齢	24
(4)	介護を理由とした離職	25
(5)	介護者が不安に感じる介護等	26
(6)	サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等	32
(7)	サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等	34
(8)	就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等	40
(9)	主な介護者の勤務形態	41
(10)	働き方の調整	42
(11)	就労継続の見込み	44
(12)	訪問系サービス利用の組み合わせと就労継続の見込み	45
III	調査票	46

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和5年度中に見直しを行う「桑名市地域包括ケア計画（第9期介護保険事業計画・第10期老人福祉計画）」の基礎資料を得るため、要支援・要介護認定を受け居宅で暮らしておられる人およびその介護をしておられる人から、家族介護の実態、施設入所の検討状況、家族介護者就労状況等をたずねたものです。

なお、この調査は、厚生労働省が示す「在宅介護実態調査」の内容を基本として実施し、この結果と認定データ（認定調査結果の情報等）を関連付け、分析しました。

2 調査方法等

調査対象者	調査方法	調査期間
要支援・要介護の認定を受けて、居宅で暮らしている人※	認定調査員による聞き取り調査	令和3年12月～令和4年11月

※医療機関や介護保険施設に入所・入居している者を除く。ただし、介護保険の指定を受けていない有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等の入居者は対象とする。

3 回収結果

回収数	有効回答数
581	553

(注) 無効票は、認定データが得られなかったもの等

4 集計分析にあたって

- (1) 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- (2) 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 性別、年齢、要介護度、サービスの利用実績等については、認定データ等を用いています。

Ⅱ 調査結果の分析

1 基本属性

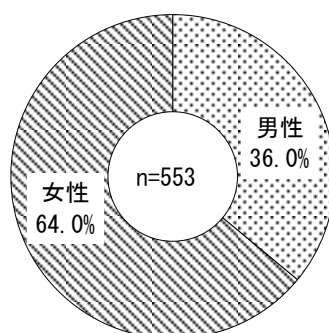
(1) 性別・年齢

調査対象者（要介護者）の性別は、男性が36.0%、女性が64.0%と女性が男性を28ポイント上回っています（図表2-1）。

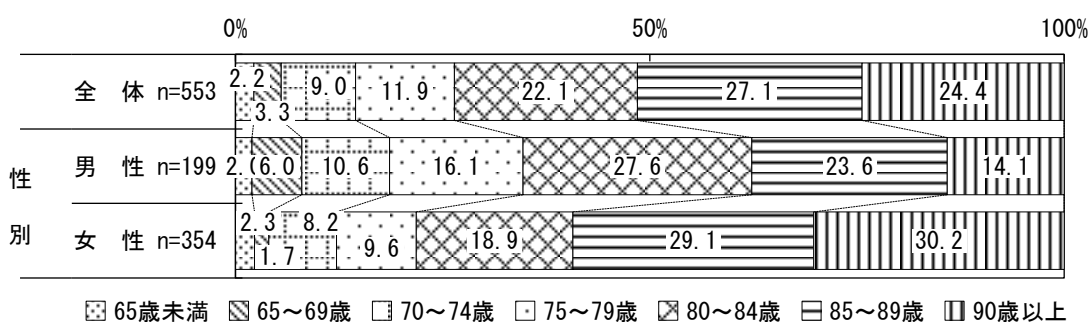
調査対象者の年齢は、65歳未満の第2号被保険者が2.2%、65～74歳の前期高齢者が12.3%、75歳以上の後期高齢者が85.5%となっています。

性別にみると、女性では後期高齢者が87.8%を占めるのに対し、男性は81.4%と6.4ポイントの差があります（図表2-2）。

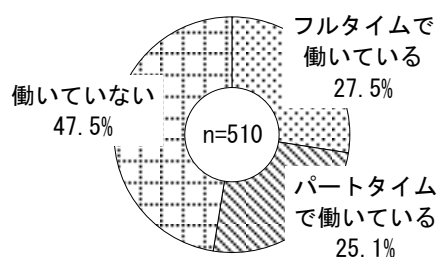
図表2-1 回答者（要介護者）の性別



図表2-2 回答者（要介護者）の年齢



【参考】主な介護者の勤務形態



(注)「主な介護者に確認しないと、わからない」および無回答を除く。

(2) 世帯類型

調査対象者の世帯類型は、主に子どもの家族との同居世帯が想定される「その他」の世帯が51.9%を占めています。「夫婦のみの世帯」は27.7%、「単身世帯」は19.5%あります。令和元年度の調査結果に比べ「夫婦のみの世帯」が上昇した反面、「単身世帯」が低下しています。

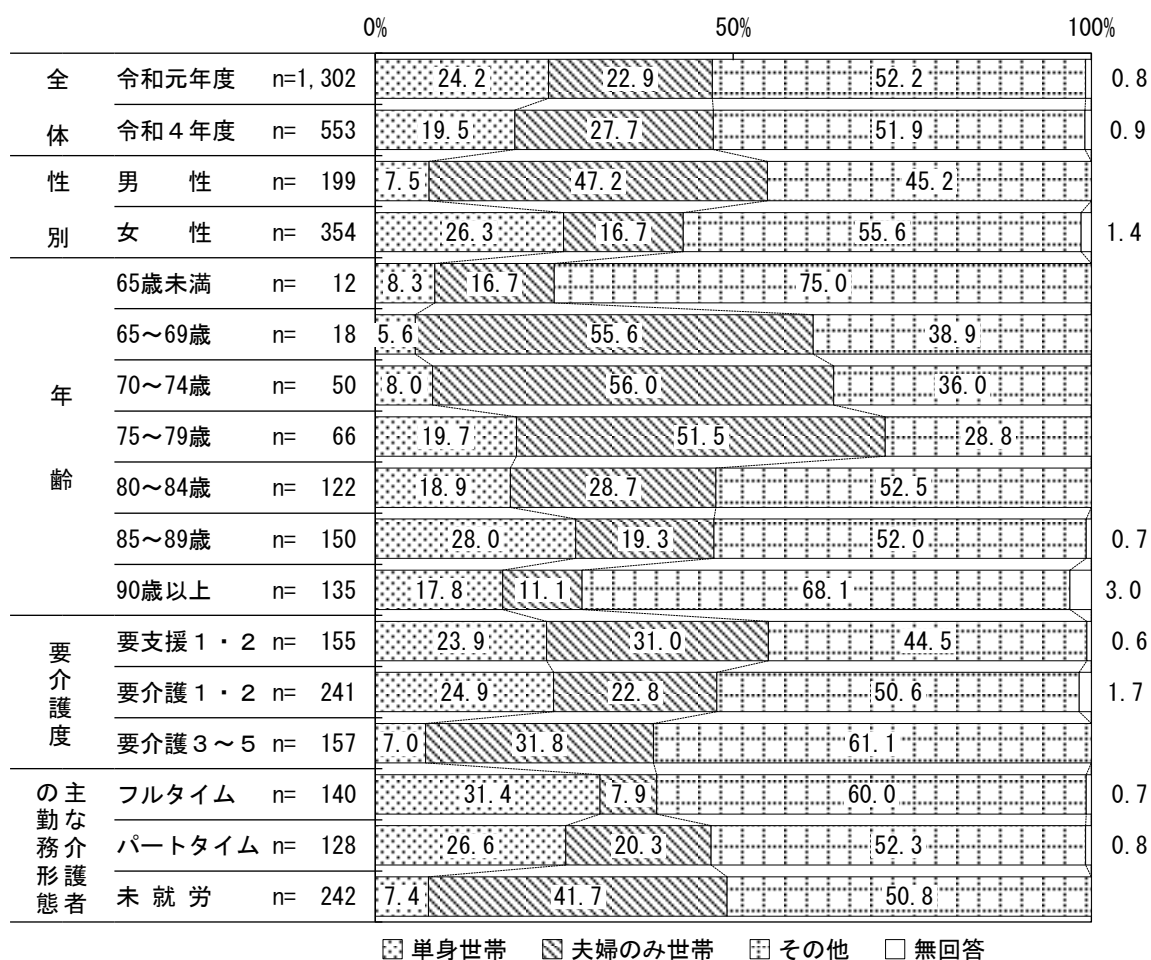
性別にみると、「単身世帯」は女性が26.3%と男性（7.5%）より18.8ポイント高く、「夫婦のみ世帯」は男性が47.2%と女性（16.7%）より30.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「単身世帯」および「その他」が高く、「夫婦のみ世帯」が低くなる傾向にあります。

要介護度別にみると、重度化にしたがい「その他」は高くなっていますが、要介護3～5でも「単身世帯」が7.0%、「夫婦のみ世帯」が31.8%あります。

主な介護者の勤務形態別にみると、フルタイムおよびパートタイムは未就労に比べて「単身世帯」が高くなっているのに対し、未就労は「夫婦のみ世帯」が比較的高くなっています。

図表 2-3 世帯類型



(3) 要介護度

調査対象者の要介護度は、「要介護1」が24.4%と最も高く、次いで「要介護2」が19.2%、「要支援2」が16.1%の順となっています。「要支援1」「要支援2」を合計した<要支援1・2>は28.0%、「要介護1」「要介護2」を合計した<要介護1・2>は43.6%、「要介護3」から「要介護5」を合計した<要介護3～5>は28.4%となっています。

性別にみると、男性は女性に比べ要介護度が高く、<要介護3～5>は男性が女性を8.3ポイント上回っています。

世帯類型別にみると、世帯規模が大きくなるにしたがい要介護度は高くなる傾向にあり、単身世帯では<要介護3～5>が10.2%ですが、その他では33.5%となっています。

主な介護者の勤務形態別にみると、<要介護3～5>はフルタイム（27.2%）およびパートタイム（22.7%）に比べ、未就労が33.9%と高くなっています。

図表2-4 要介護度

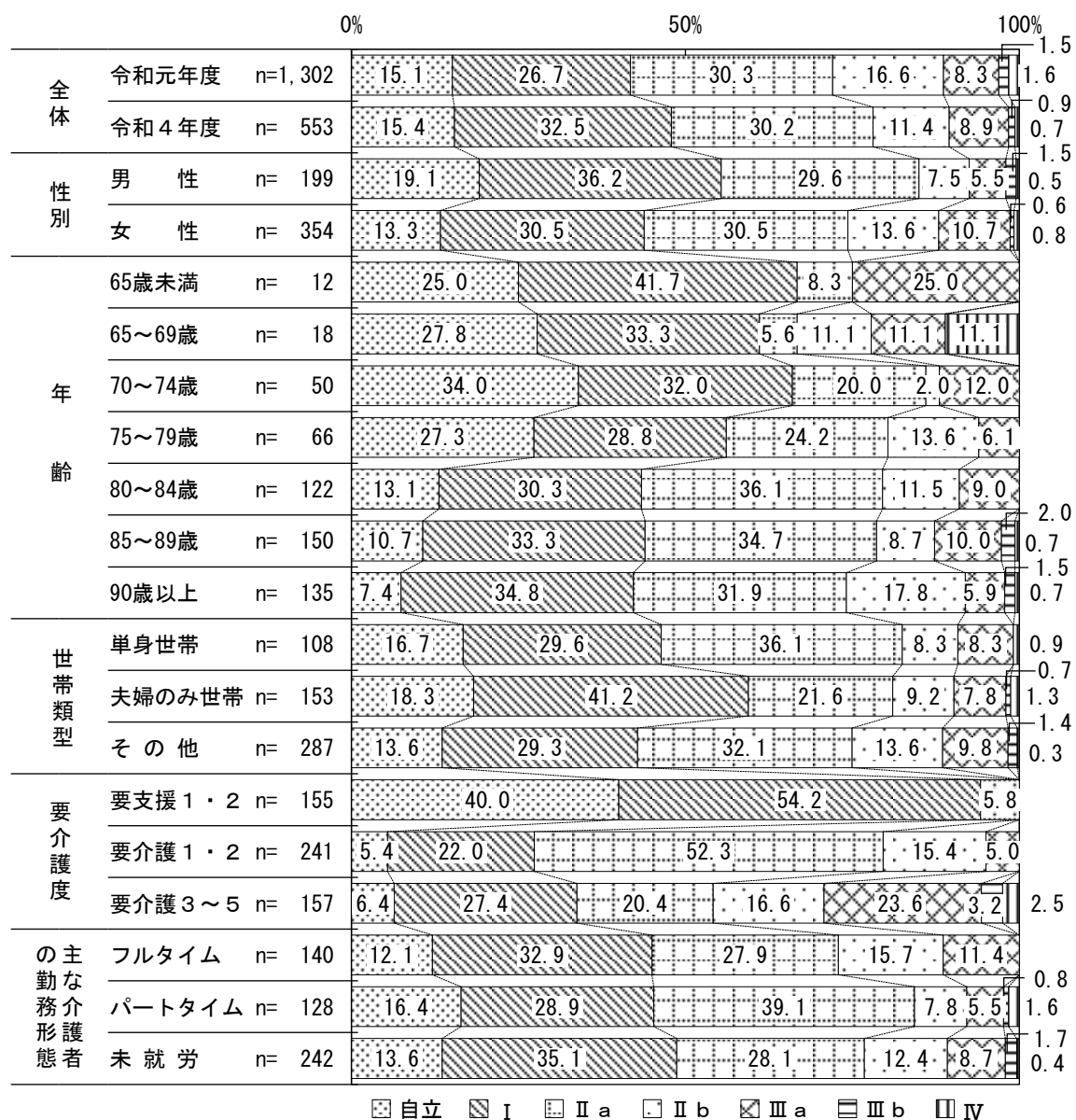


(4) 認知症日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度（以下「認知症自立度」と言います。）判定基準の<Ⅱa以上>を認知症とみると、全体では52.1%となります。<Ⅱa以上>は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、80歳を超えると55%を超え、90歳以上では57.8%となっています。令和元年度の調査結果に比べⅠが上昇した反面、Ⅱbが低下しています。

要介護度別にみると、要支援1・2では<Ⅰ以下>が94.2%を占めています。<Ⅱa以上>は、要介護1・2が72.7%、要介護3～5が66.3%と、要介護1・2の方が高くなっていますが、介護を必要とする状態である<Ⅲa以上>では、要介護1・2（5.0%）より要介護3～5が29.3%と高くなっています。

図表2-5 認知症日常生活自立度



(注) Mの該当者はありません。

【参考】認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

レベル	判断基準
I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
II a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
II b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
III a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
III b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
IV	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

2 介護保険サービス等

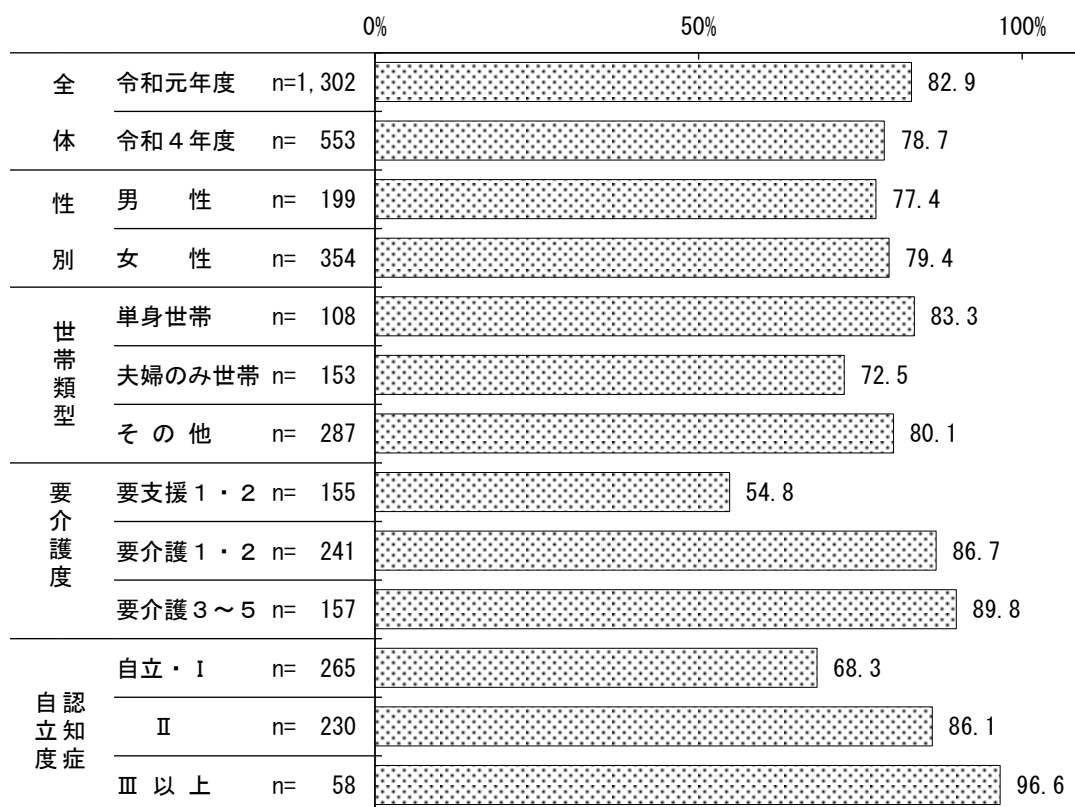
(1) 介護保険サービスの利用状況

住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用率は78.7%です。令和元年度の調査結果に比べ4.2ポイント低下しています。

世帯類型別では単身世帯が83.3%最も高くなっている一方、夫婦のみの世帯では72.5%と10ポイント以上低くなっています。

要介護度別では、重度化にしたがい高くなっており、要介護3～5では89.8%と90%近い率となります。また、認知症自立度別でも重度化にしたがい高くなっており、Ⅲ以上では96.6%となっています。

図表 2-6 介護保険サービスの利用状況



(2) 利用しているサービス

介護保険サービスの利用状況を見ると、「通所介護」が57.0%と突出して高く、次いで「訪問介護」が15.2%、「通所リハビリ」が9.2%、「ショートステイ」が8.5%、「訪問看護」が7.6%などの順となっており、「未利用」が21.3%あります。

世帯類型別にみると、夫婦のみの世帯では「未利用」が27.5%と、その他より7.6ポイント、単身世帯より10.8ポイント高くなっています。

要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率が高くなっていく傾向にあり、特に「訪問介護」「訪問看護」および「ショートステイ」は要介護3～5の割合が要介護1・2に比べ高くなっており、これらのサービスが重度の要介護者の在宅生活を支えていることがわかります。

認知症自立度別においても重度化にしたがい利用率が高くなる傾向にあり、特に「ショートステイ」は他に比べ20ポイント以上高くなっています。

単身世帯、要介護3～5、認知症自立度Ⅱ・Ⅲ以上でも「未利用」が少なからずあり、介護する家族等が一定数いることが伺えます。

図表2-7 利用しているサービス（複数回答）

単位：nは人、他は%

区 分		n	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	認知症対応型通所介護	通所リハビリ	居宅介護小規模多機能型	看護小規模多機能型居宅介護	ショートステイ	導 居宅療養管理指	未利用
全体	令元年度	1,302	22.0	1.1	8.4	3.5	59.4	0.8	8.1	4.1	0.5	9.1	2.0	17.1
	令4年度	553	15.2	1.6	7.6	4.9	57.0	0.7	9.2	2.9	0.7	8.5	2.2	21.3
性別	男性	199	18.1	2.0	10.1	5.5	50.8	0.5	10.1	2.5	-	9.0	3.5	22.6
	女性	354	13.6	1.4	6.2	4.5	60.5	0.8	8.8	3.1	1.1	8.2	1.4	20.6
世帯類型	単身世帯	108	24.1	-	1.9	0.9	64.8	-	4.6	5.6	0.9	6.5	0.9	16.7
	夫婦のみ世帯	153	17.6	2.6	11.1	6.5	47.7	-	7.2	2.6	-	7.2	1.3	27.5
	その他	287	10.5	1.7	8.0	5.6	58.9	1.4	11.8	2.1	1.0	9.8	3.1	19.9
要介護度	要支援1・2	155	7.1	-	3.9	2.6	41.3	-	6.5	-	-	1.3	0.6	45.2
	要介護1・2	241	16.2	-	5.0	3.7	69.3	0.4	7.9	3.3	1.2	5.8	1.2	13.3
	要介護3～5	157	21.7	5.7	15.3	8.9	53.5	1.9	14.0	5.1	0.6	19.7	5.1	10.2
自立度 認知症	自立・Ⅰ	265	11.7	1.1	8.3	6.4	45.7	-	10.2	1.9	-	3.4	3.0	31.7
	Ⅱ	230	17.4	0.4	6.1	3.5	68.3	0.4	7.4	3.0	1.3	8.7	0.9	13.9
	Ⅲ以上	58	22.4	8.6	10.3	3.4	63.8	5.2	12.1	6.9	1.7	31.0	3.4	3.4

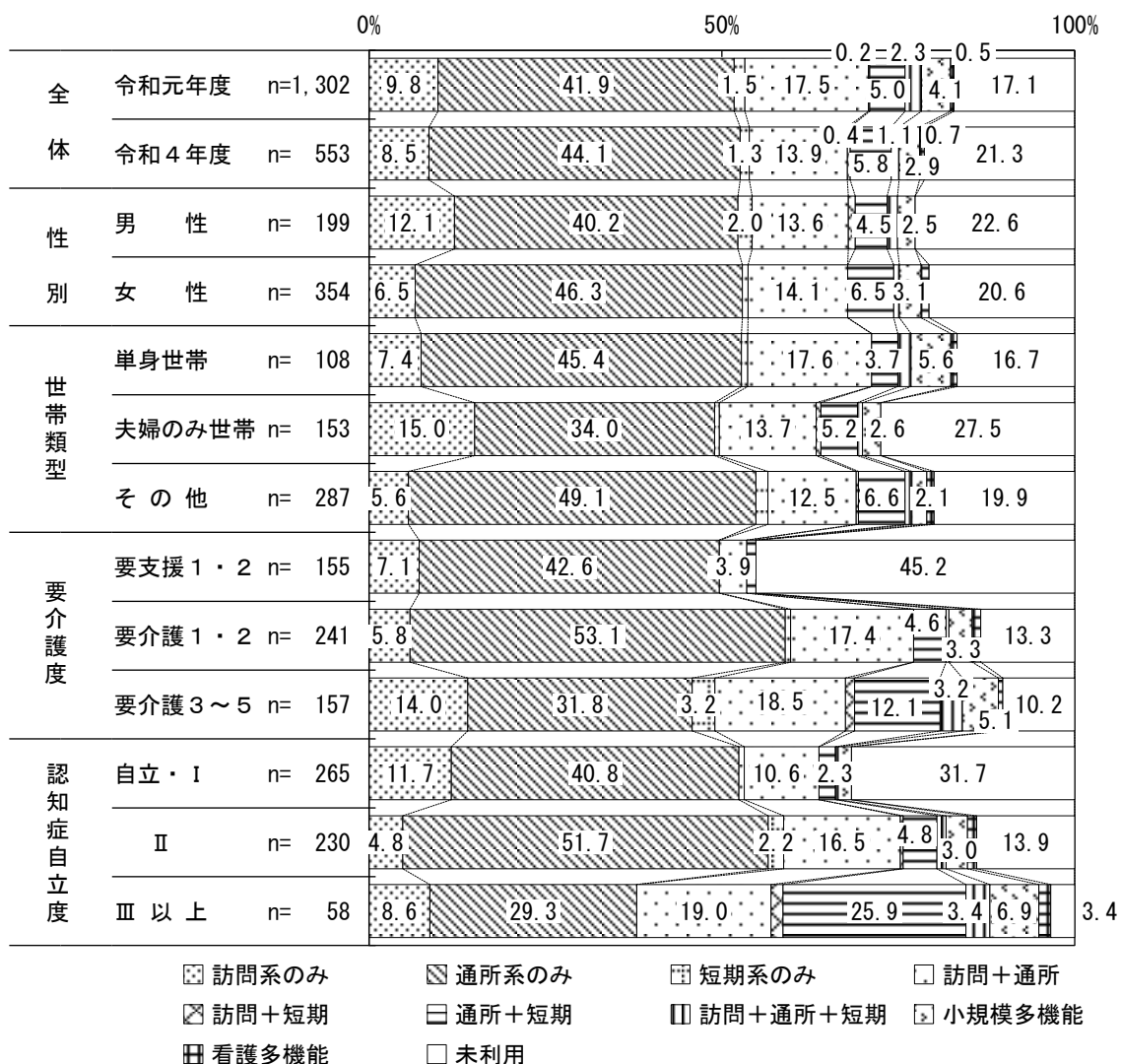
(3) 利用しているサービスの組み合わせ

利用しているサービスの組み合わせをみると、「通所系のみ」が44.1%と最も高く、次いで「訪問+通所」の組み合わせが13.9%、「訪問系のみ」が8.5%などとなっています。令和元年度の調査結果に比べ「通所系のみ」が2.2ポイント上昇しています。

世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯では「通所系のみ」が他の世帯類型に比べ低くなっている一方、「訪問系のみ」が高くなっています。また、単身世帯では「訪問+通所」および「小規模多機能」が若干高くなっています。

要介護度別の要介護3～5、認知症自立度のⅢ以上では、「通所系のみ」の割合が他に比べ低く、「訪問+通所」「通所+短期」「小規模多機能」など複数のサービスを組み合わせたパターンが高くなっています。

図表2-8 利用しているサービスの組み合わせ



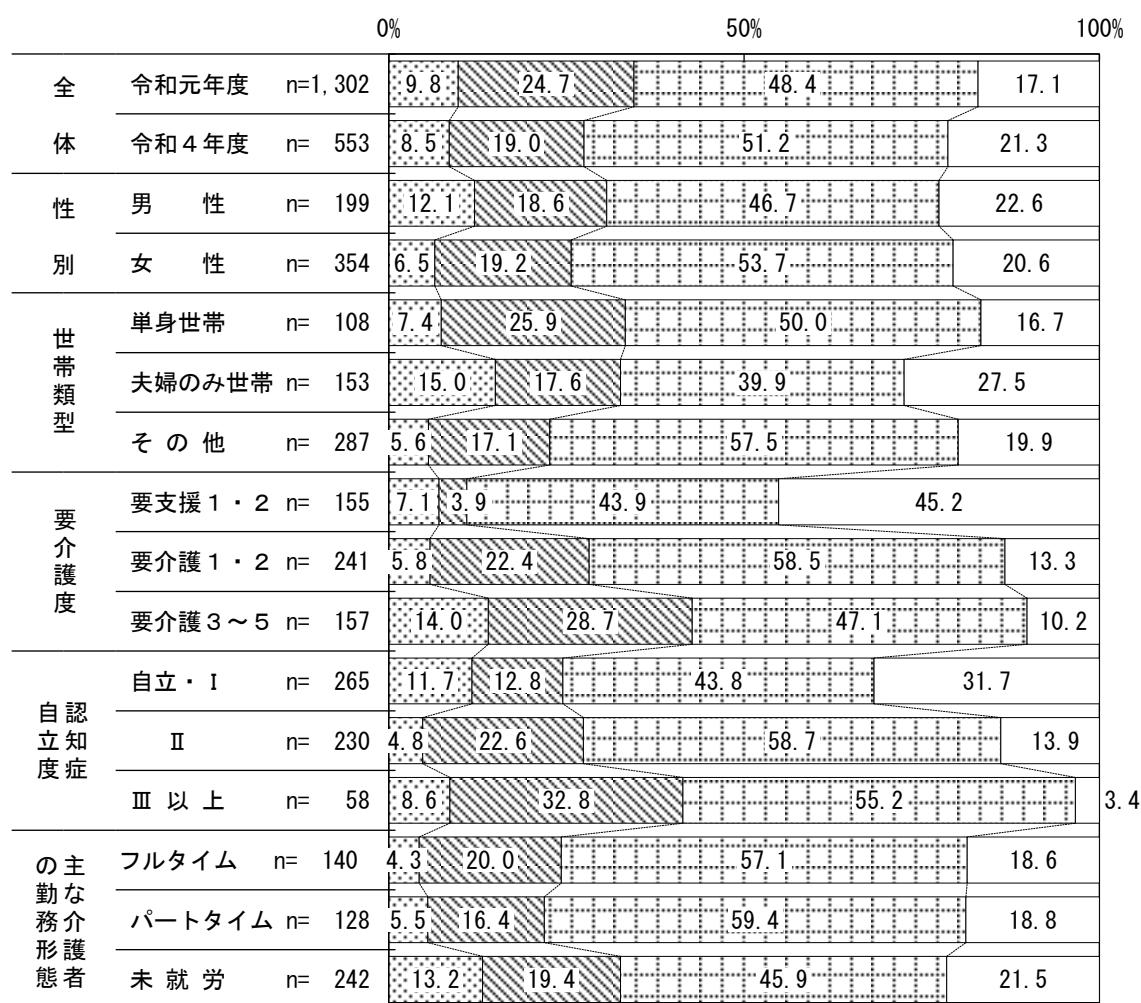
(注) 全体以外の2%未満の数値は表記を省略

利用しているサービスの組み合わせを簡略化してみると、「通所系・短期系のみ」が51.2%を占め、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が19.0%などとなっています。令和元年度の調査結果に比べ「通所系・短期系のみ」が上昇した一方で、「訪問系を含む組み合わせ」が低下しています。

世帯類型別にみると、単身世帯では「訪問系を含む組み合わせ」が比較的高く25.9%あります。一方、その他では「通所系・短期系のみ」が57.5%と圧倒的に高くなっています。

要介護度別、認知症自立度別ともに、重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」が高くなっています。

図表2-9 利用しているサービスの組み合わせ（簡略化）



☐ 訪問系のみ ▨ 訪問系を含む組み合わせ ▤ 通所系・短期系のみ □ 未利用

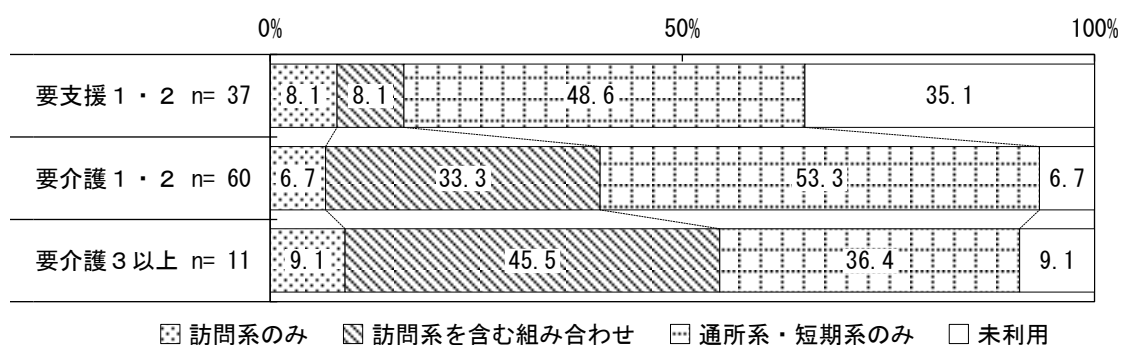
(4) 要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、いずれの世帯類型においても重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」が高くなっています。特に単身世帯および夫婦のみの世帯の要介護3以上では「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」の合計が54%台と非常に高くなっています。

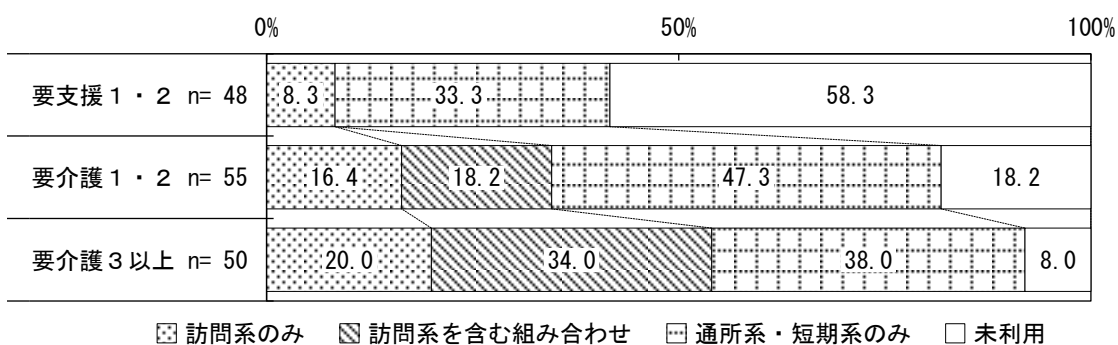
なお、「通所系・短期系のみ」は、いずれの世帯類型においても要介護1・2が他の要介護度に比べて高くなっています。

図表2-10 要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

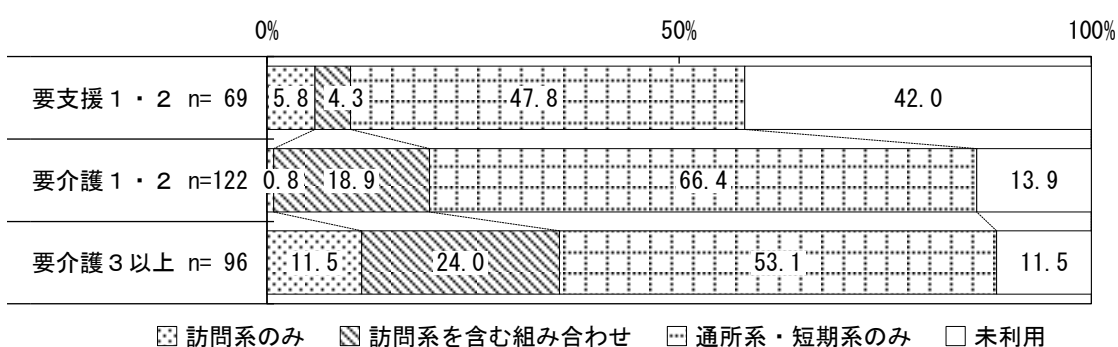
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他

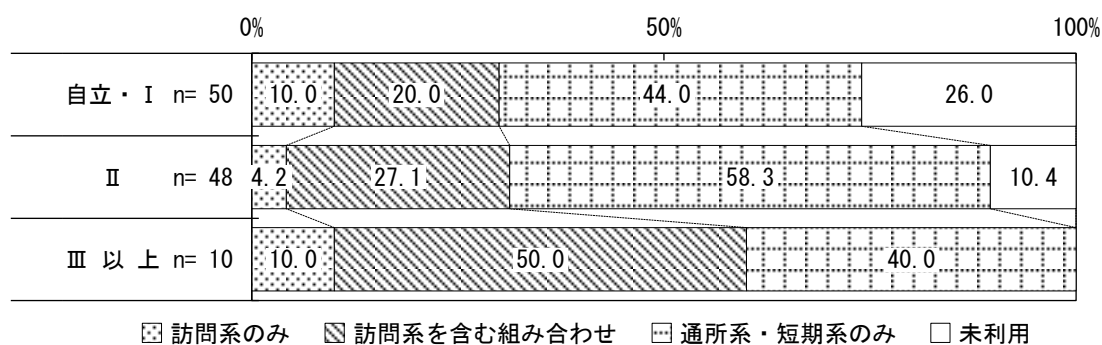


(5) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

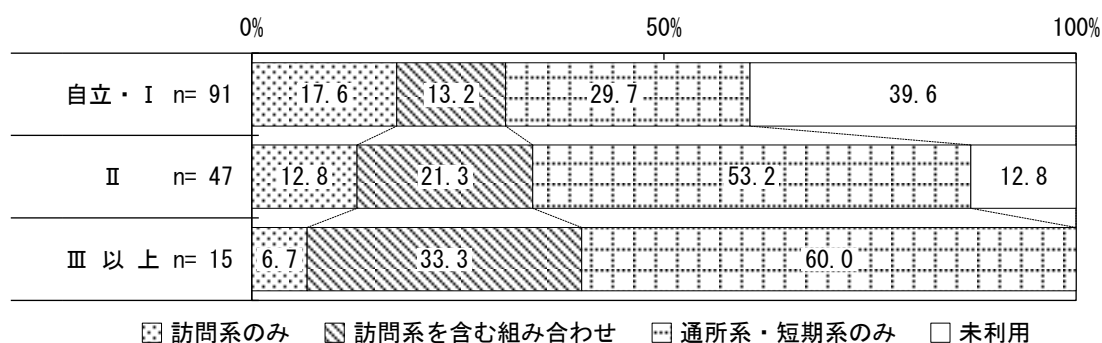
サービス利用の組み合わせを、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、認知症自立度別にみると、いずれの世帯類型においても重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」が高くなっています。特に単身世帯のⅢ以上では「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」の合計が60%と非常に高くなっています。夫婦世帯では、重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」が高くなる一方、「訪問系のみ」が低下しています。その他では、認知症自立度にかかわらず「通所系・短期系のみ」が50%以上の高い率を示しています。

図表2-11 認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

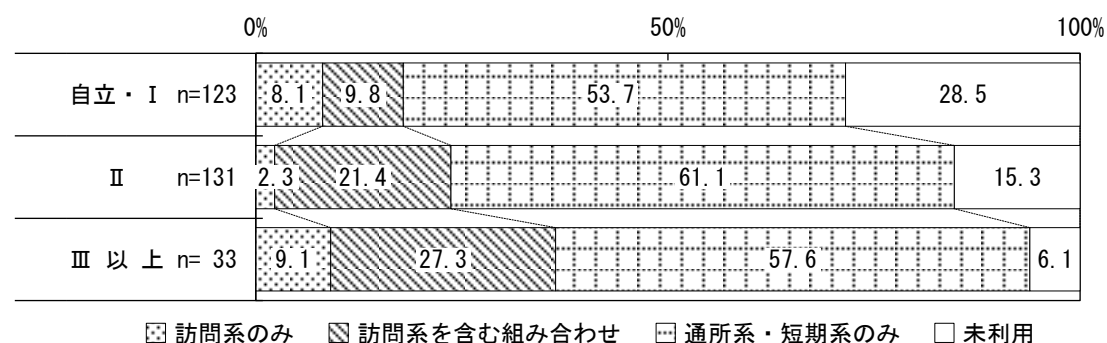
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



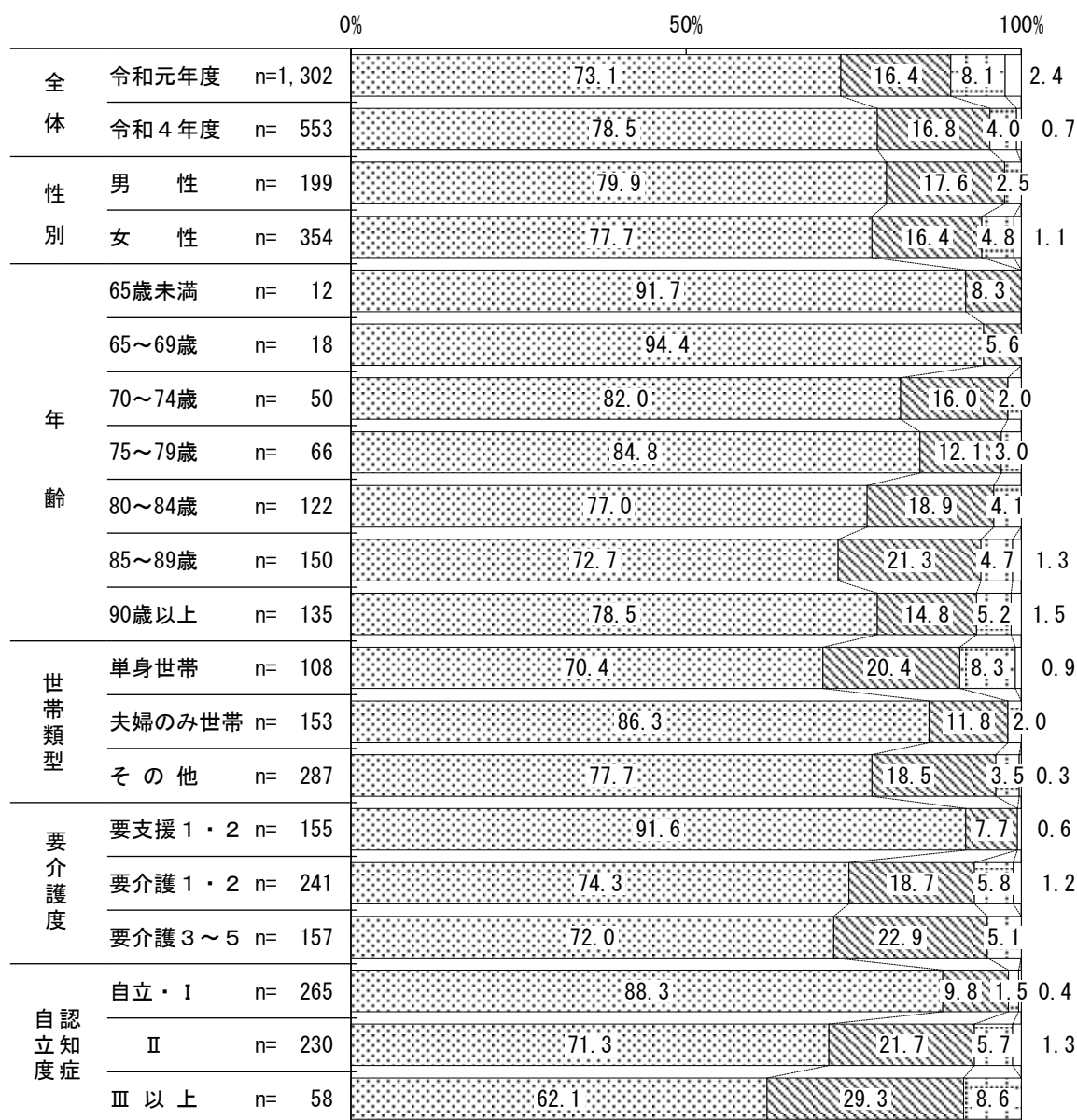
(6) 施設等への入所・入居の検討状況

施設等*への入所・入居の検討状況をみると、「入所・入居は検討していない」が78.5%を占めています。「すでに入所・入居申し込みをしている」(4.0%)と「入所・入居を検討している」(16.8%)を合計した<入所・入居意向>は20.8%です。令和元年度の調査結果に比べ「入所・入居は検討していない」が5ポイント以上上昇しています。

<入所・入居意向>が25%を超えているのは、年齢別では85~89歳、世帯類型別では単身世帯、要介護度別では要介護3~5、認知症自立度別ではⅡおよびⅢ以上です。心身の状態の悪化・重度化や家族介護者の不在が入所・入居意向に影響していることがわかります。

*「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院(介護療養型医療施設)、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

図表2-12 施設等への入所・入居の検討状況



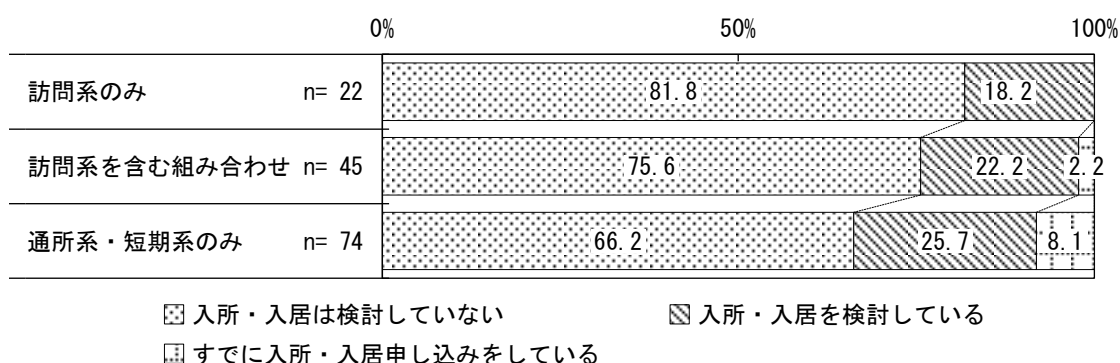
入所・入居は検討していない
 入所・入居を検討している
 すでに入所・入居申し込みをしている
 無回答

(7) サービス利用の組み合わせと施設等への入所・入居の検討状況

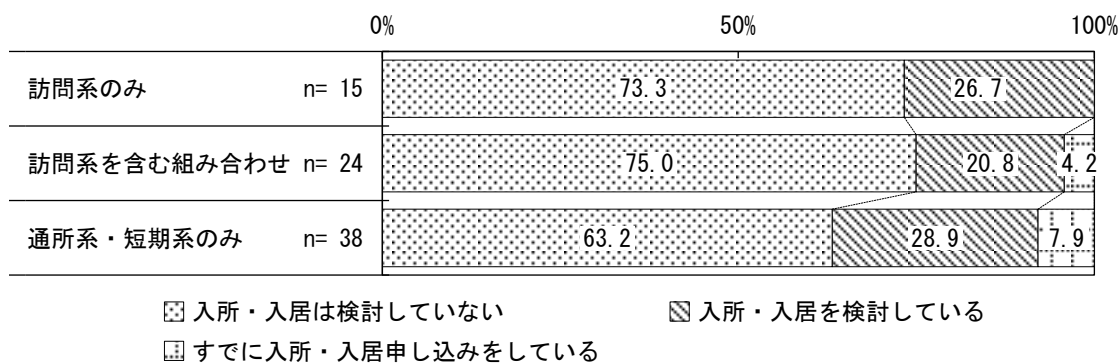
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②要介護4以上、③認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせ別にみると、〈入所・入居意向〉は、①および②では、《訪問系のみ》および《訪問系を含む組み合わせ》に比べ《通所系・短期系のみ》が高くなっていますが、③はサービス利用の組み合わせに関わらず35～40%です。なお、「すでに入所・入居申し込みをしている」は、①～③のいずれの場合においても《通所系・短期系のみ》が高くなっています。

図表2-13 施設等への入所・入居の検討状況（サービス利用の組み合わせ別）

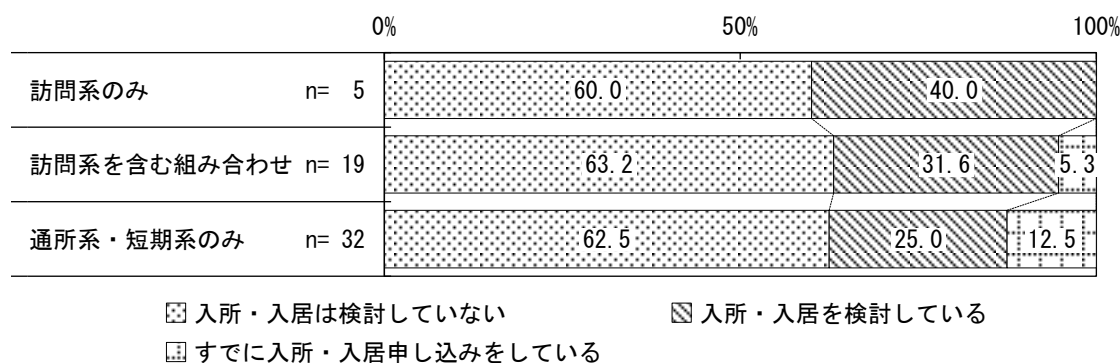
① 要介護3以上



② 要介護4以上



③ 認知症自立度Ⅲ以上

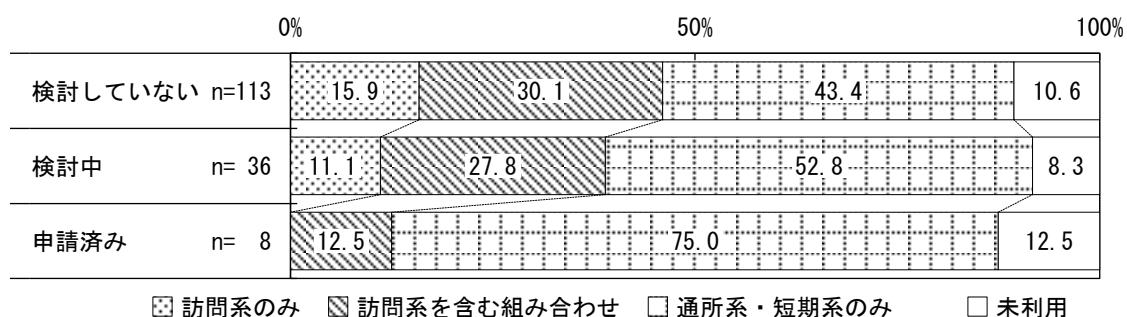


(注) 無回答を除く

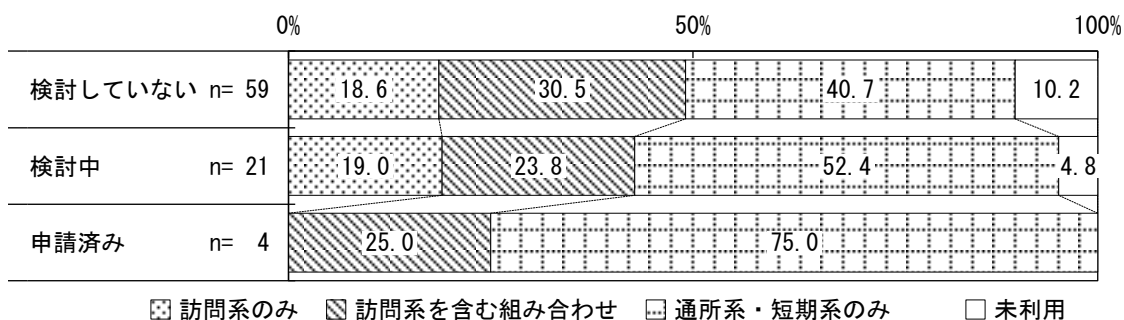
①要介護3以上、②要介護4以上、③認知症自立度Ⅲ以上に分けて、施設等への入所・入居の検討状況別にサービス利用の組み合わせをみると、「訪問系のみ」および「訪問系を含む組合せ」の合計は、①②では《検討していない》、③では《検討中》が45%を超えています。また、①～③のいずれの場合も《申請済み》の「通所系・短期系のみ」が《検討していない》《検討中》より高く、75%以上となっています。

図表2-14 サービス利用の組み合わせ（施設等への入所・入居の検討状況別）

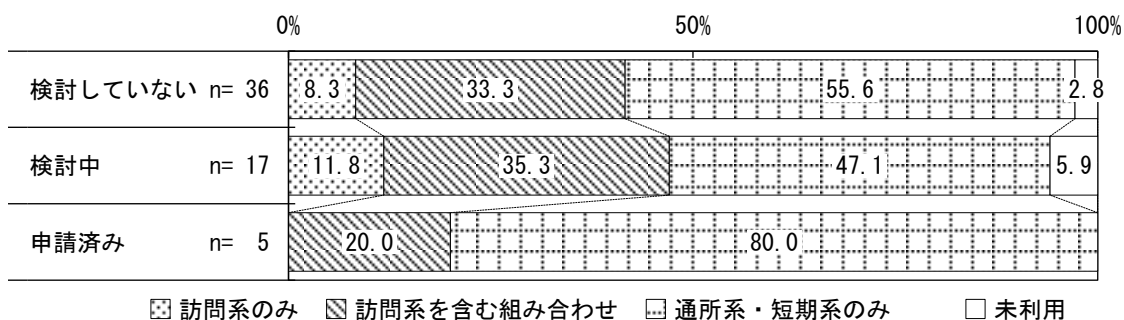
① 要介護3以上



② 要介護4以上



③ 認知症自立度Ⅲ以上



(8) サービスの利用回数と施設等への入所・入居の検討状況

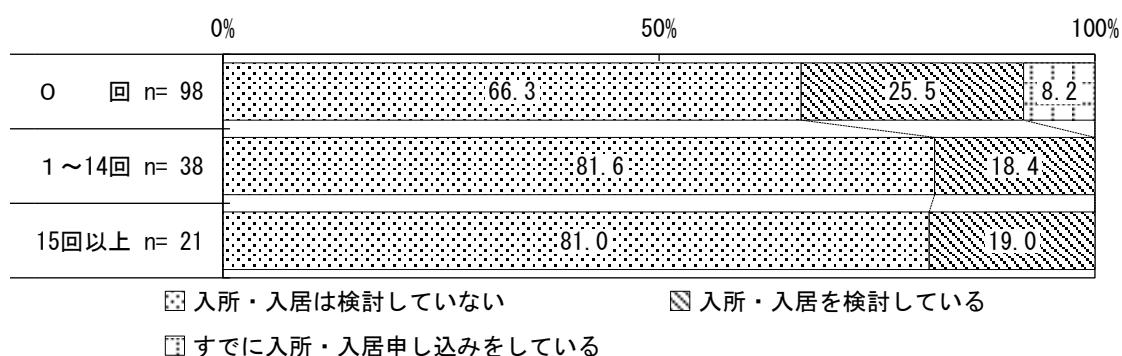
① 訪問系サービス

施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、訪問系サービスの利用回数別にみると、①要介護3以上では、利用回数が《0回》の<入所・入居意向>が33.7%と最も高くなっています。「入所・入居は検討していない」は《1～14回》および《15回以上》で80%を超えています。

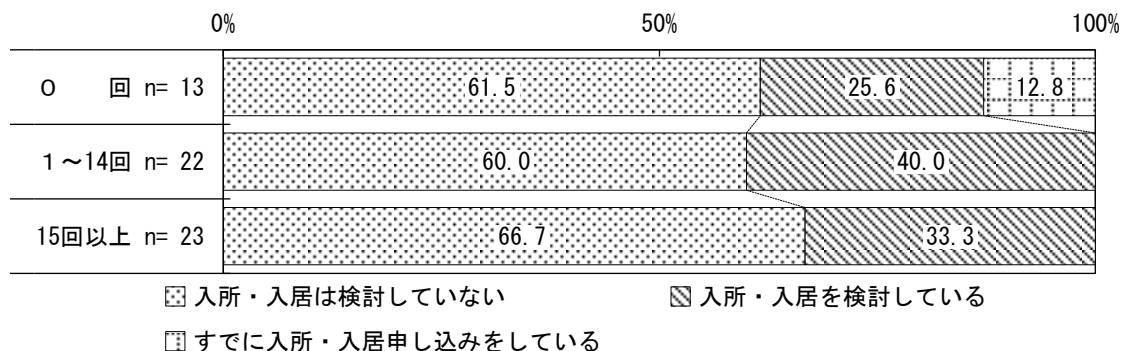
②認知症自立度Ⅲ以上では、《15回以上》の「入所・入居は検討していない」が66.7%と最も高く、《0回》または《1～14回》を5ポイント以上上回っています。

図表2-15 訪問系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



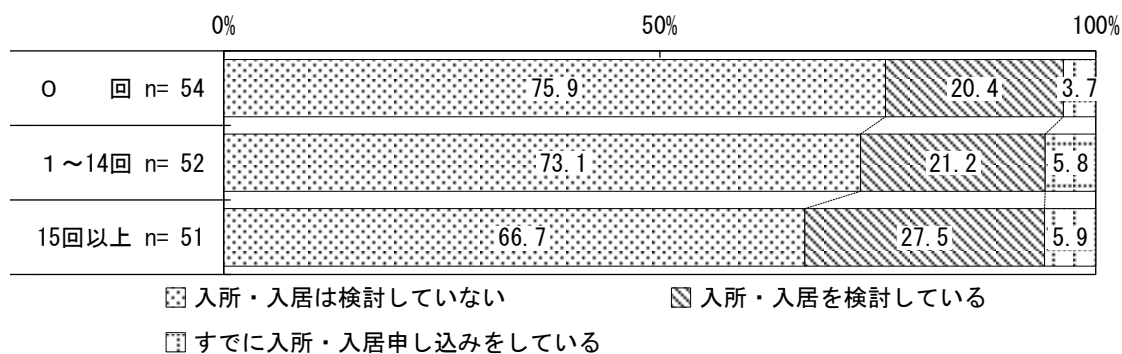
(注) 無回答を除く

② 通所系サービス

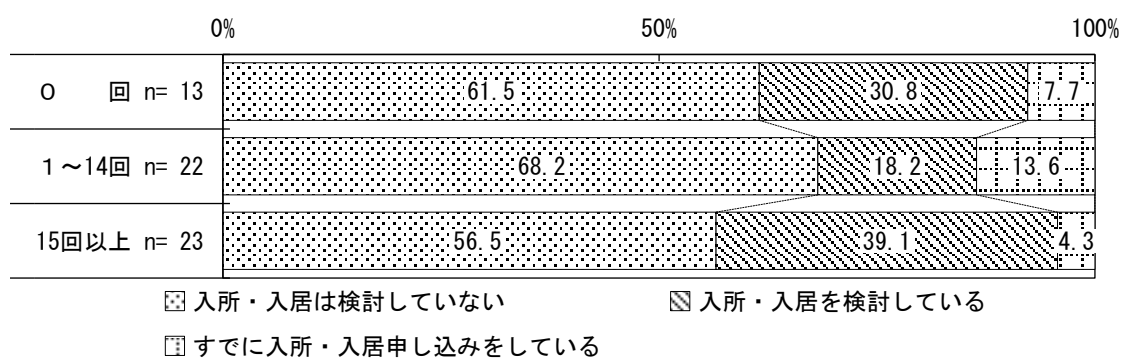
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、通所系サービスの利用回数別にみると、〈入所・入居意向〉が最も高いのは、①②ともに《15回以上》です。

図表2-16 通所系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



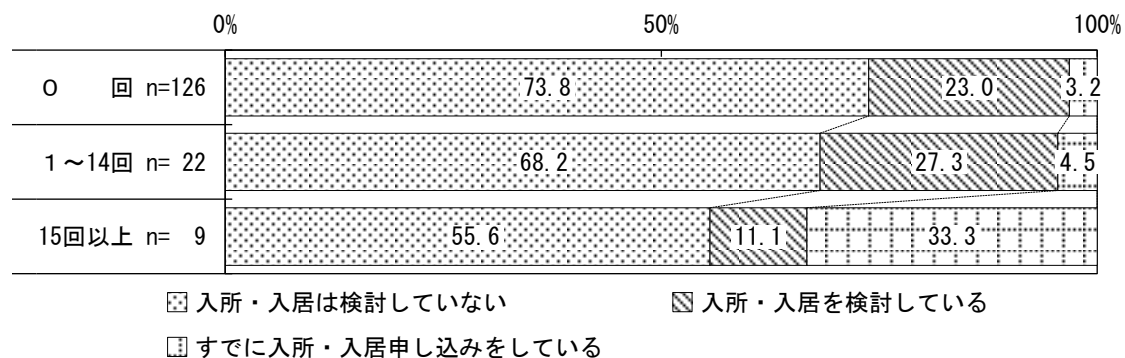
(注) 無回答を除く

③ 短期系サービス

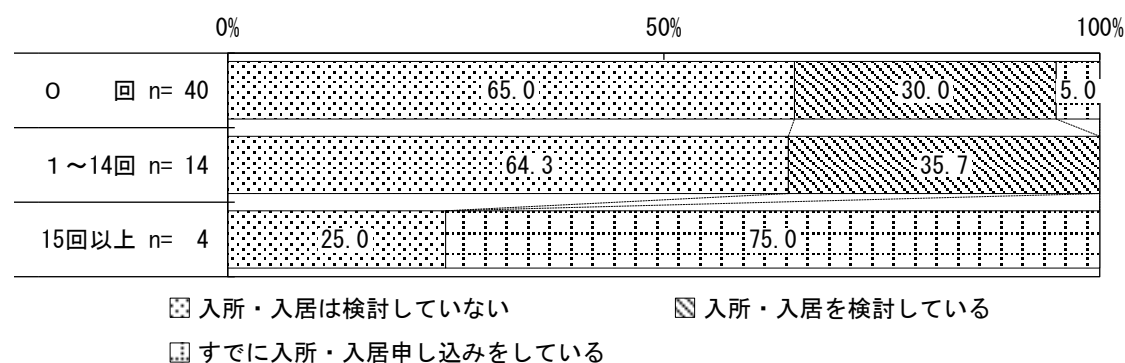
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、短期系サービスの利用回数別にみると、〈入所・入居意向〉が高いのは、①②ともに《15回以上》です。

図表2-17 短期系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



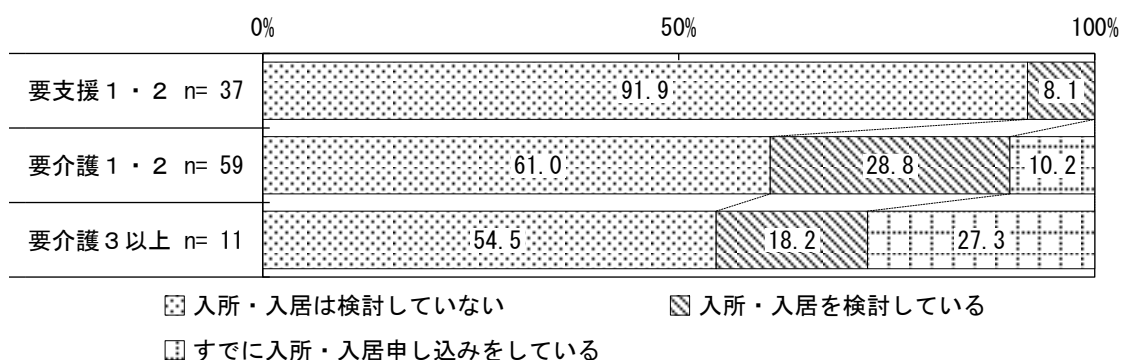
(注) 無回答を除く

(9) 要介護度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況

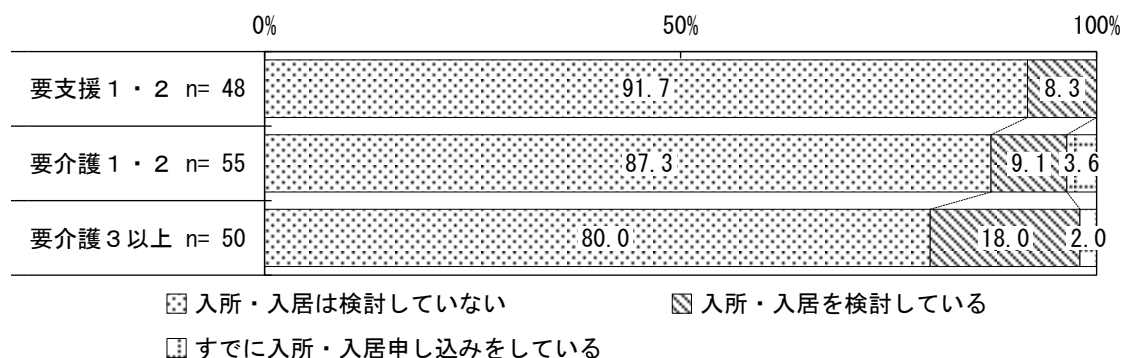
施設等への入所・入居の検討状況を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、いずれの世帯においても重度化にしたがい<入所・入居意向>が高くなり、軽度ほど「入所・入居は検討していない」が高くなっていますが、要支援1・2でも「入所・入居を検討している」が8%前後あります。また、《要介護3以上》でも「入所・入居は検討していない」が、②では80%、③でも70%弱を占めています。

図表2-18 施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別・世帯類型別）

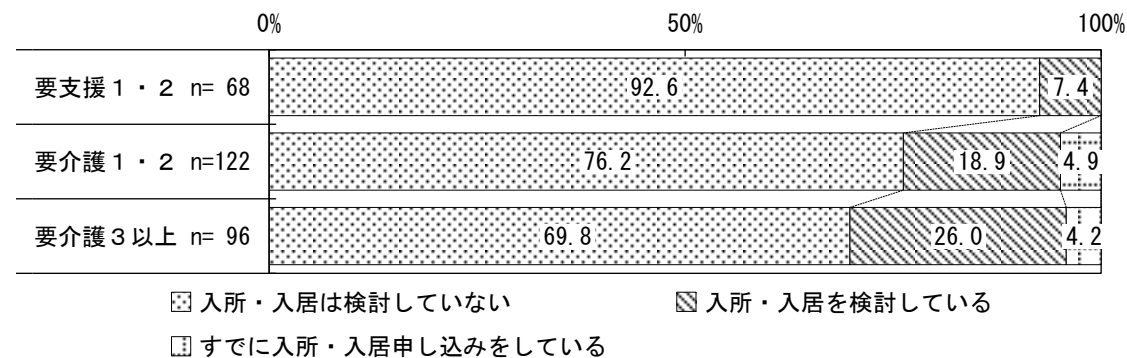
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



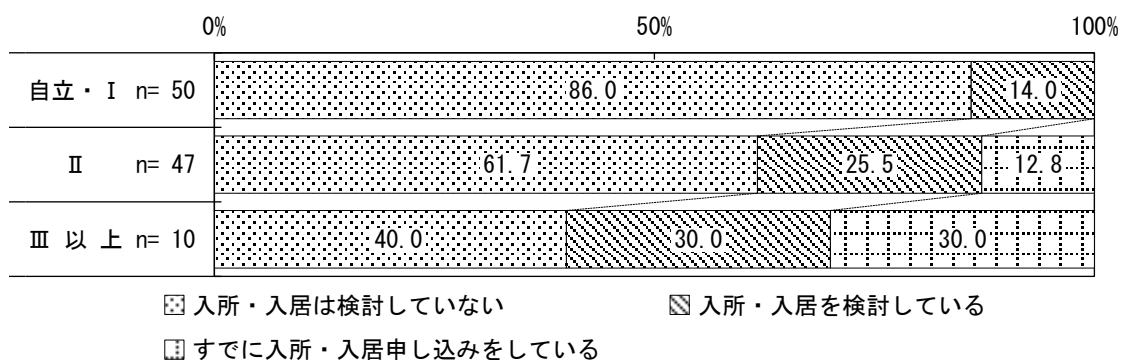
(注) 無回答を除く

(10) 認知症自立度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況

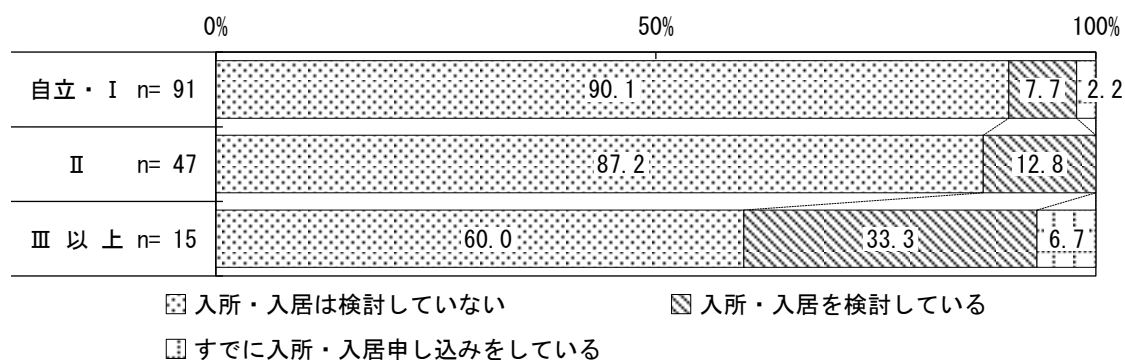
施設等への入所・入居の検討状況を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、認知症自立度別にみると、いずれの世帯においても重度化にしたがい入所・入居意向>が高く、軽度ほど「入所・入居は検討していない」が高くなっています。②の《自立・Ⅰ》および《Ⅱ》では「入所・入居は検討していない」が90%前後の高い率を示していますが、《Ⅲ以上》になると60%に低下します。

図表 2-19 施設等への入所・入居の検討状況（認知症自立度別・世帯類型別）

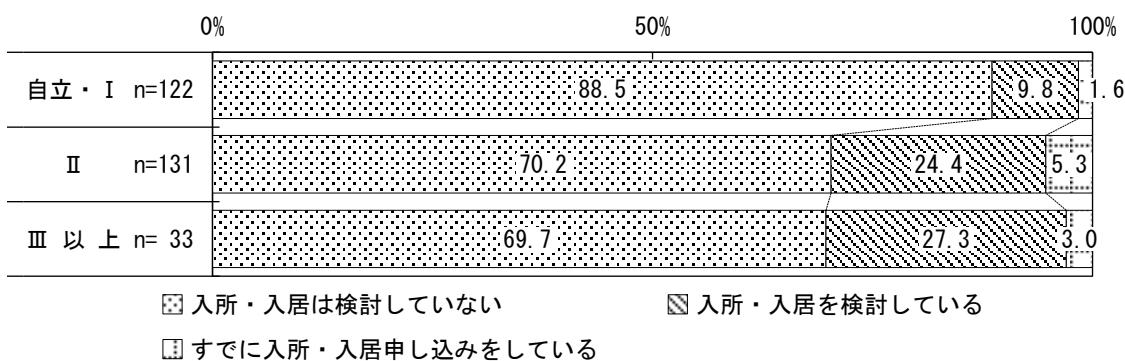
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他

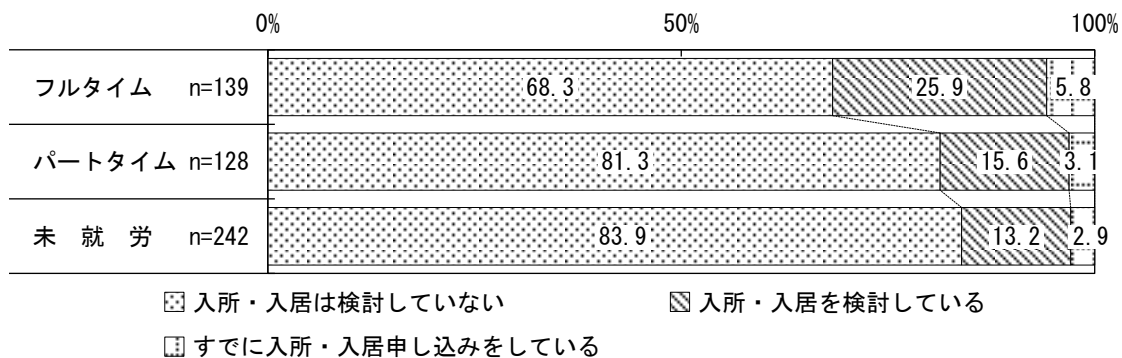


(注) 無回答を除く

(11) 介護者の就労状況別の施設等への入所・入居の検討状況

介護者の就労状況別に、施設等への入所・入居の検討状況をみると、＜入所・入居意向＞が最も高いのはフルタイムの31.7%です。パートタイムの＜入居・入居意向＞は18.7%、未就労は16.1%です（図表2-20）。

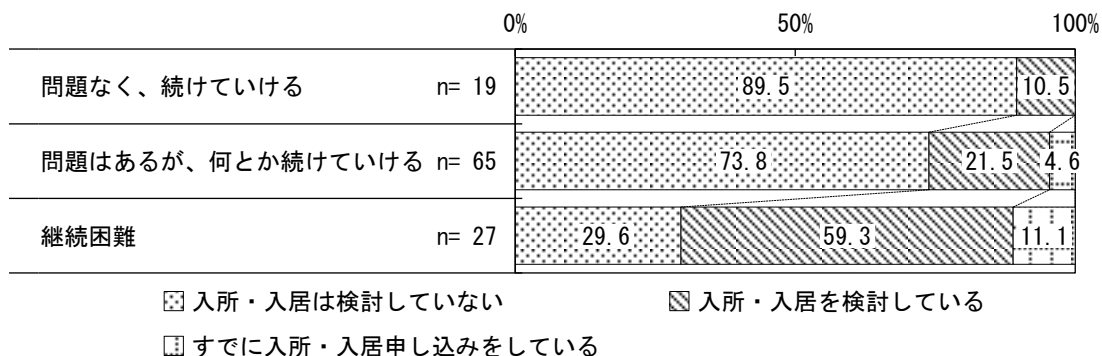
図表2-20 施設等への入所・入居の検討状況（就労状況別）



(注) 無回答を除く

また、要介護2以上で介護者が就労している人の就労継続の見込み別にみると、継続困難の＜入所・入居意向＞が70%を超えており、他に比べて40ポイント以上高くなっています（図表2-21）。

図表2-21 施設等への入所・入居の検討状況（就労継続見込み別・要介護2以上で介護者が就労）



(注) 1 「継続困難」 = 「続けていくのは、やや難しい」 + 「続けていくのは、かなり難しい」

2 無回答を除く

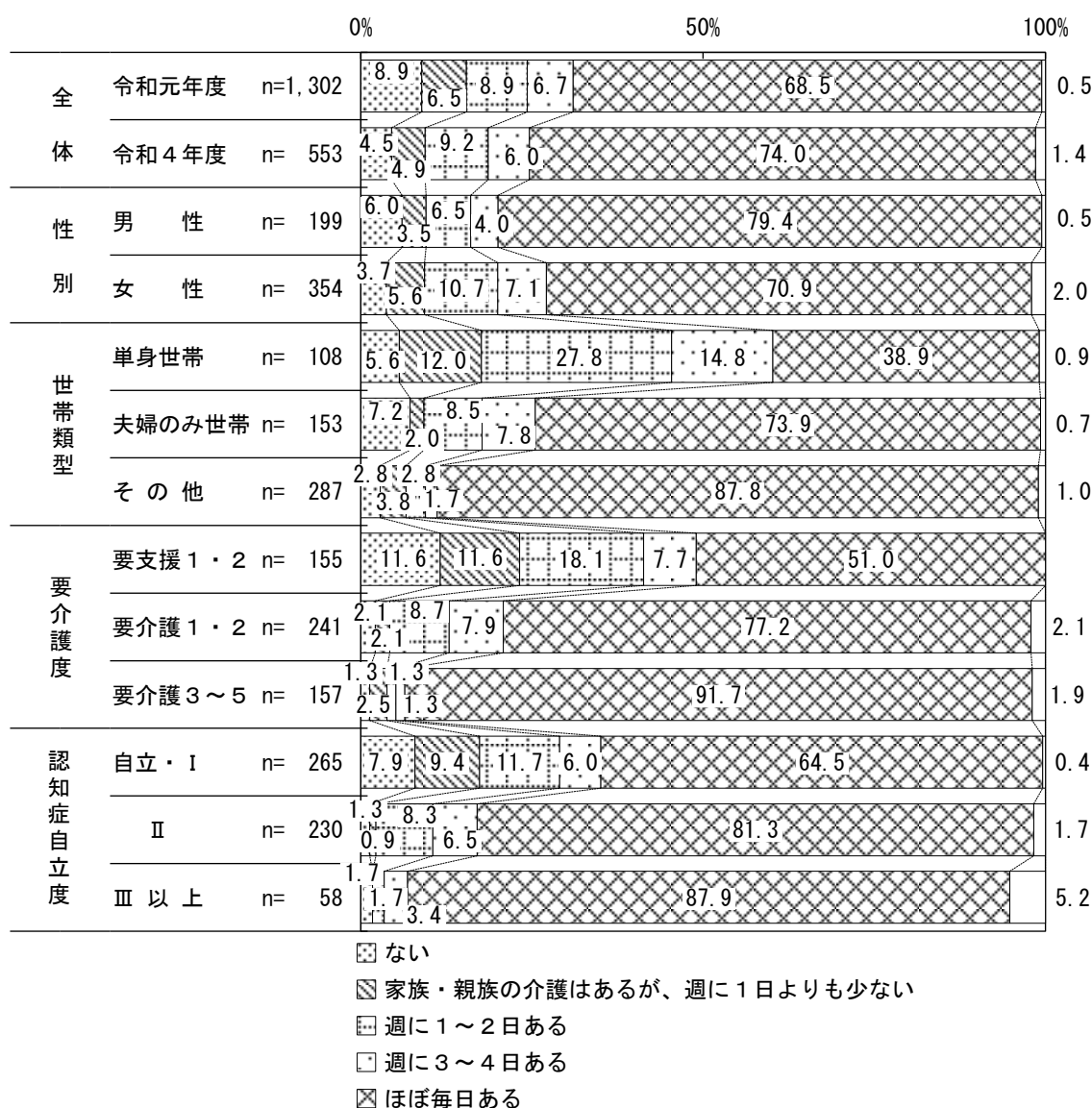
3 介護者の状況

(1) 家族・親族による介護の頻度

家族・親族からの介護（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）については、「ほぼ毎日ある」が74.0%を占めており、これに「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」「週に1～2日ある」「週に3～4日ある」を加えたく家族・親族の介護を受けている人は94.1%です。「ない」は4.5%となっています。令和元年度の調査結果に比べ「ほぼ毎日ある」が5ポイント以上上昇しています。

「ほぼ毎日ある」を、要介護度別にみると、要支援1・2では51.0%であるのに対し、要介護1・2では70%を超え、要介護3～5では90%以上を占めます。認知症自立度別にみると、自立・Iでは64.5%ですが、IIおよびIII以上では80%を超えます。

図表2-22 家族・親族による介護の頻度

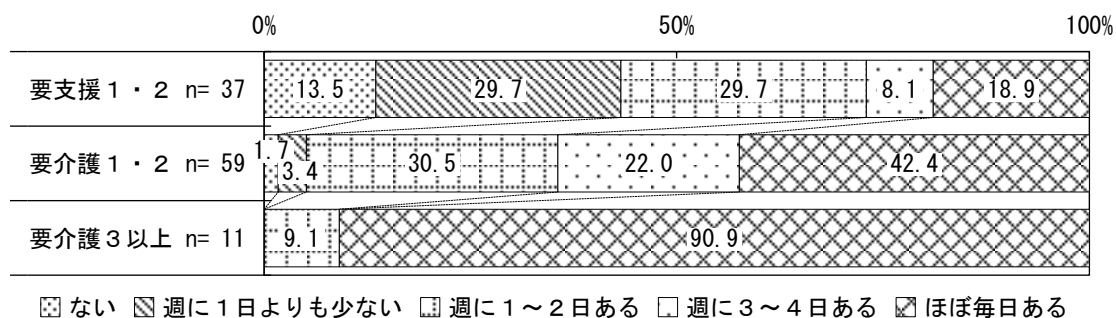


(2) 要介護度別・世帯類型別の家族・親族による介護の頻度

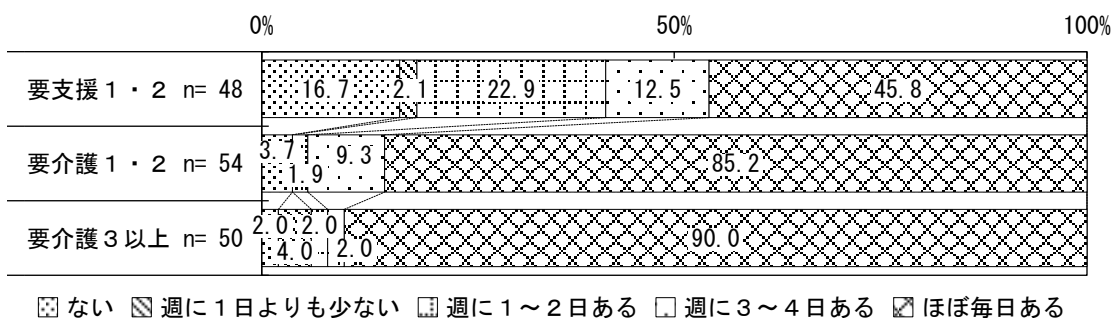
家族・親族による介護の頻度を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、世帯類型にかかわらず、要介護3以上では「ほぼ毎日」が90%を超えています。また、②および③では、要介護1・2でも「ほぼ毎日」が85%以上となっていますが、①では42.4%です。

図表2-23 家族・親族による介護の頻度（要介護度別・世帯類型別）

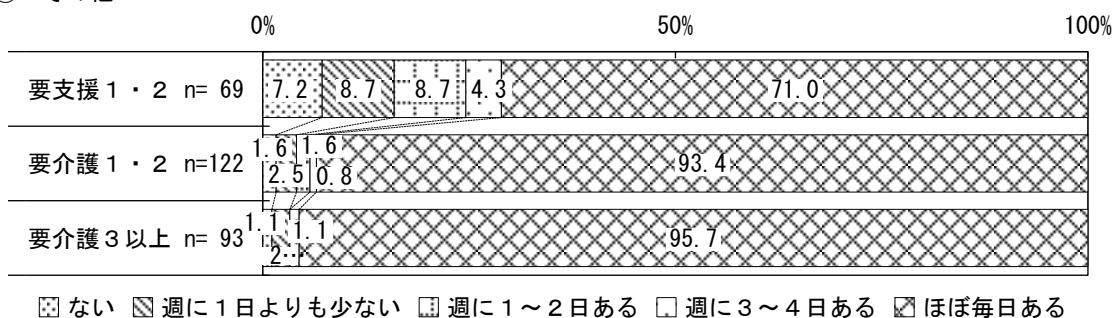
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



(注) 無回答を除く

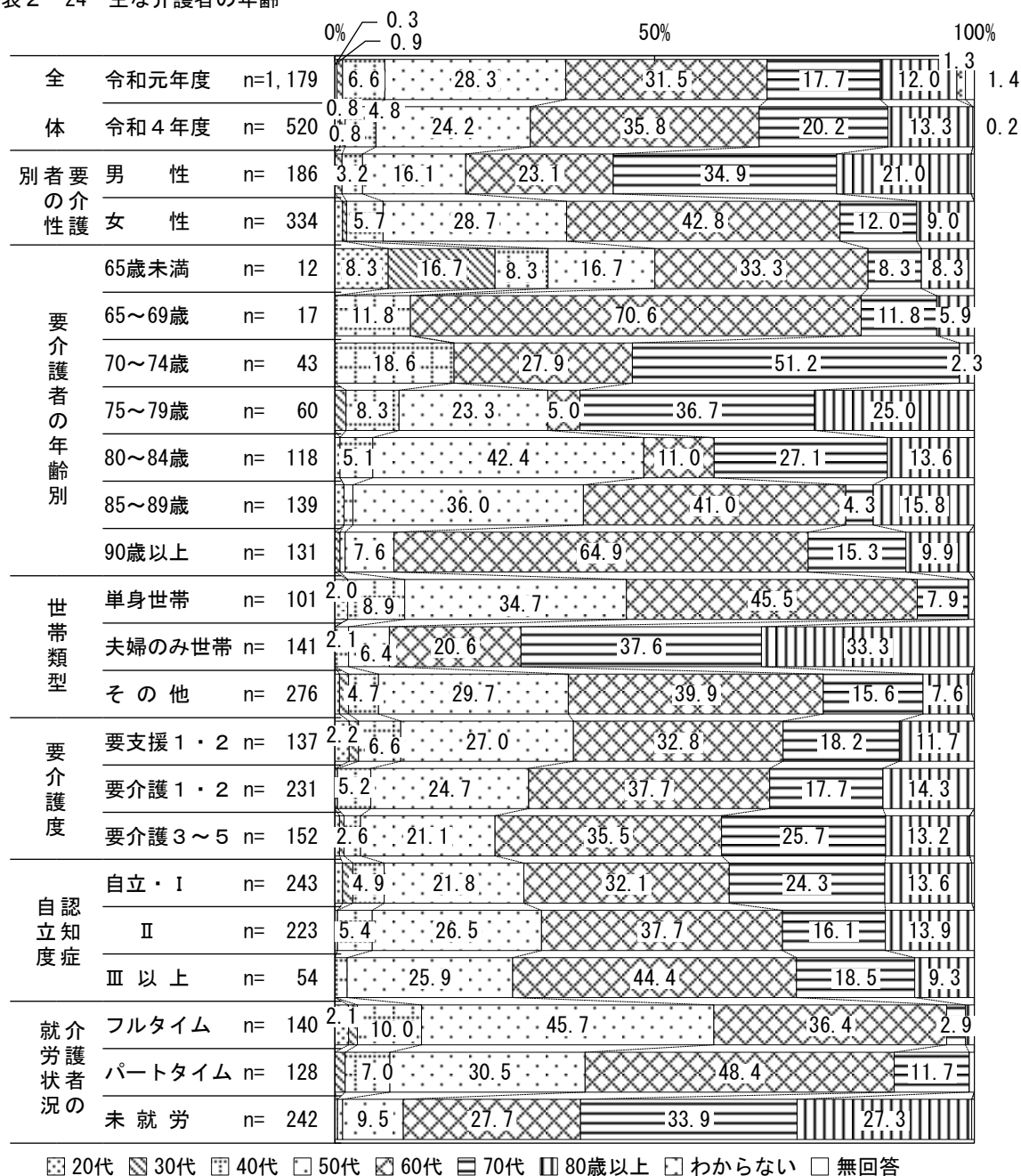
(3) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は「60代」が35.8%と最も高く、次いで「50代」が24.2%、「70代」が20.2%、「80歳以上」が13.3%の順となっています。令和元年度の調査結果に比べ60代以上が8ポイント以上上昇しています。

要介護者の性別でみると、男性の場合、配偶者が主な介護者となることが多いため70代以上が55.9%を占めています。世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯では70代以上が70%以上を占めています。

なお、いわゆるヤングケアラーにあたる「20歳未満」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

図表2-24 主な介護者の年齢



(4) 介護を理由とした離職

家族や親族の中で、調査対象者の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問わない）がいるかをたずねたところ、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は5.2%（27人）、「主な介護者が転職した」は0.8%（4人）となっており、合計した＜主な介護者の離職・転職＞は6.0%です。＜主な介護者以外の離職・転職＞は1.9%です。令和元年度の調査結果に比べ＜主な介護者の離職・転職＞は0.8ポイント、＜主な介護者以外の離職・転職＞は1ポイント上昇しています。

＜主な介護者の離職・転職＞を、要介護度別にみると重度化にしたがい高くなっているのに対し、認知症自立度別では、自立・ⅠとⅢ以上が7.4%と同じ率になっています。

図表2-25 介護を理由とした離職（複数回答）

単位：nは人、他は%

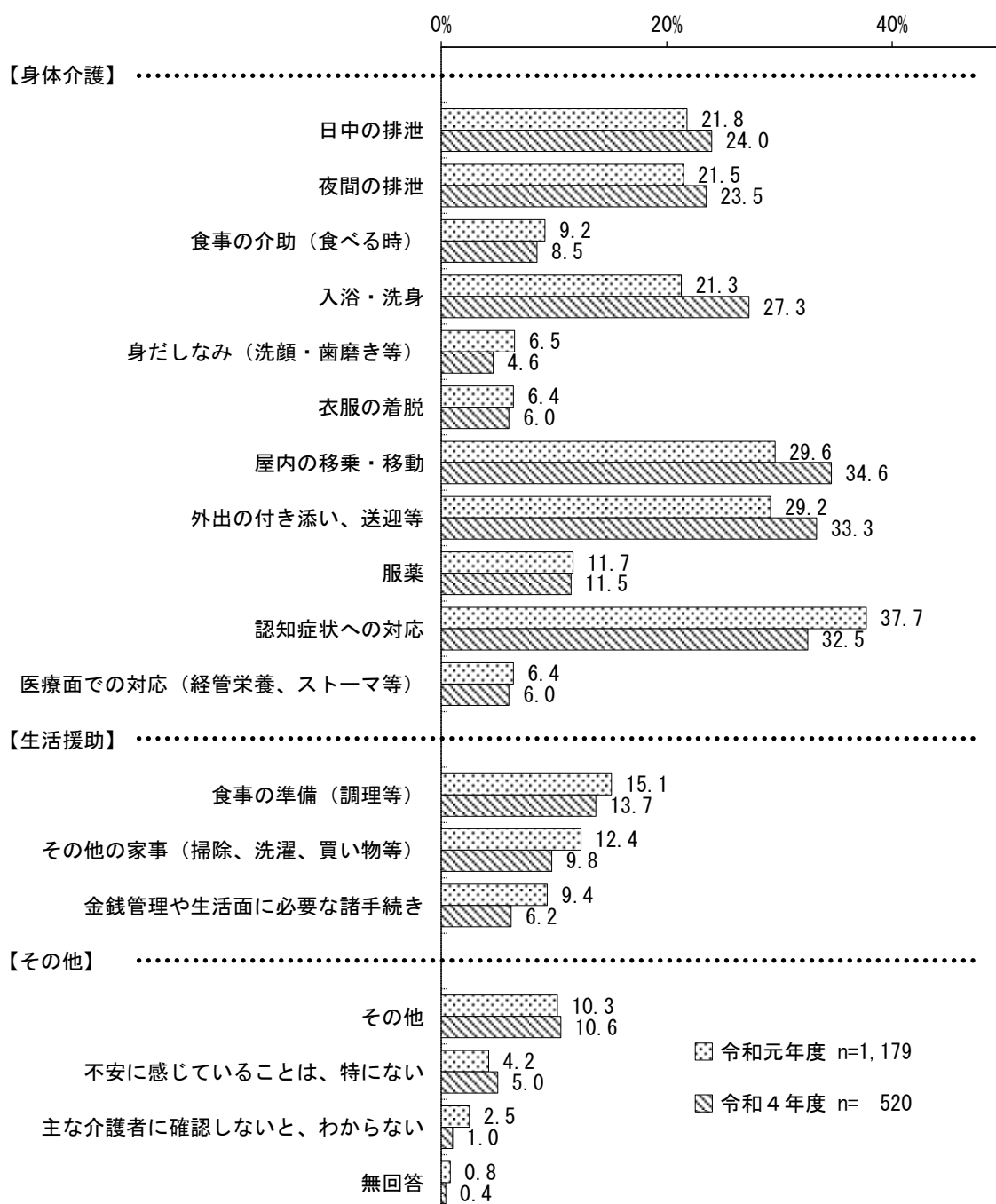


区分	n	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた	主な介護者が転職した	親族が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
		全体	令元年度 令4年度	1,179 520	4.6 5.2	0.7 1.3	0.6 0.8	0.2 0.6	91.3 88.3	1.2 1.3
世帯類型	単身世帯	101	5.0	-	1.0	2.0	85.1	3.0	4.0	
	夫婦のみ	141	5.0	2.8	-	-	87.9	0.7	3.5	
	その他	276	5.4	1.1	1.1	0.4	89.9	1.1	1.1	
要介護度	要支援1・2	137	4.4	0.7	0.7	0.7	90.5	0.7	2.2	
	要介護1・2	231	4.8	1.3	1.3	0.9	88.3	1.3	2.2	
	要介護3～5	152	6.6	2.0	-	-	86.2	2.0	3.3	
認知症自立度	自立・Ⅰ	243	6.6	0.8	0.8	0.8	86.4	1.6	2.9	
	Ⅱ	223	3.1	1.8	0.9	0.4	90.6	1.3	1.8	
	Ⅲ以上	54	7.4	1.9	-	-	87.0	-	3.7	
主な介護者の年齢	50歳未満	33	3.0	-	3.0	3.0	87.9	3.0	-	
	50代	126	4.0	-	0.8	0.8	91.3	1.6	1.6	
	60代	186	7.0	3.2	1.1	-	84.4	1.6	2.7	
	70代以上	174	4.6	0.6	-	0.6	90.2	0.6	3.4	

(5) 介護者が不安に感じる介護等

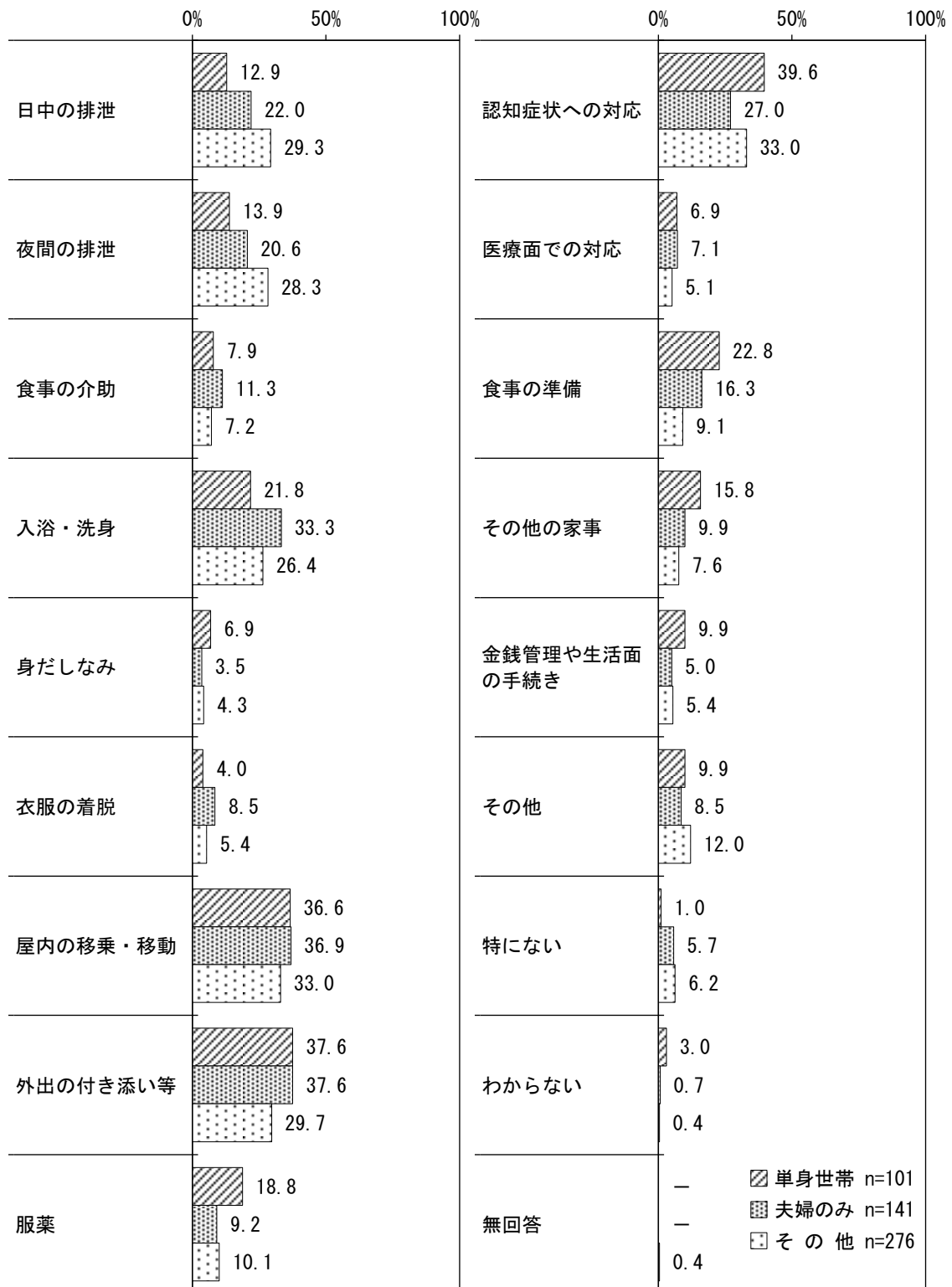
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等（現状で行っているか否かは問わない）についてたずねたところ、「屋内の移乗・移動」が34.6%と最も高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が33.3%、「認知症状への対応」が32.5%、「入浴・洗身」が27.3%、「日中の排泄」が24.0%、「夜間の排泄」が23.5%などとなっています。令和元年度の調査結果に比べ「認知症状への対応」が大幅に低下した反面、「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」等が大幅に上昇しています。

図表 2-26 介護者が不安に感じる介護等（複数回答（3つまで））



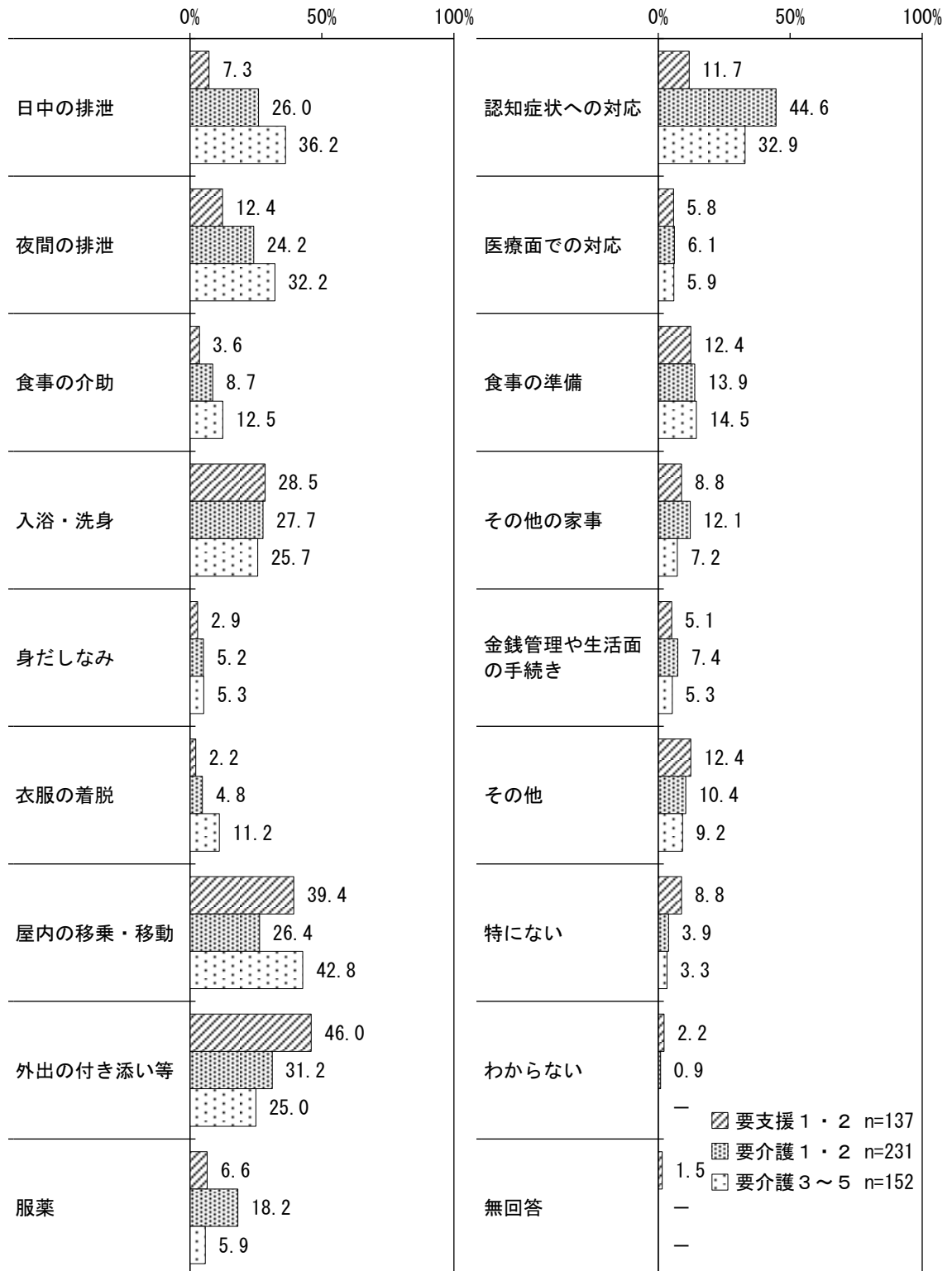
主な介護者が不安を感じる介護等を世帯類型別にみると、単身世帯では「認知症状への対応」が最も高く、次いで「外出の付き添い等」「屋内の移乗・移動」の順となっています。夫婦のみ世帯では「外出の付き添い等」が最も高く、次いで「屋内の移乗・移動」が高く、その他では「屋内の移乗・移動」および「認知症状への対応」が最も高くなっています。

図表 2-27 介護者が不安を感じる介護等（世帯類型別、複数回答（3つまで））



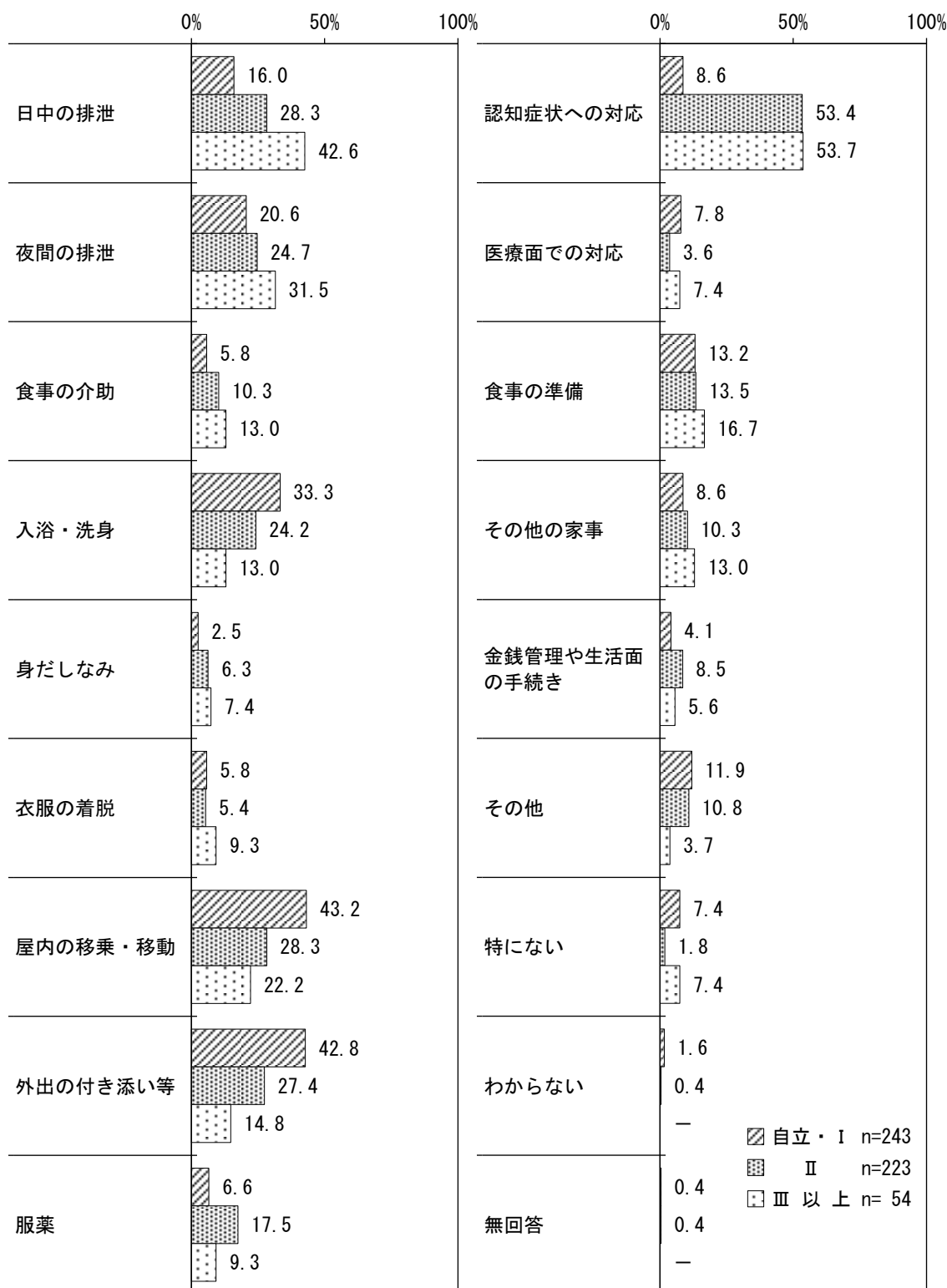
主な介護者が不安を感じる介護等を要介護度別にみると、要支援1・2では「外出の付き添い等」、要介護1・2では「認知症状への対応」、要介護3～5では「屋内の移乗・移動」が最も高くなっています。重度になるほど「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助」「衣服の着脱」が高く、軽度なほど「入浴・洗身」「外出の付き添い等」などが高くなっています。

図表2-28 介護者が不安を感じる介護等（要介護度別、複数回答（3つまで））



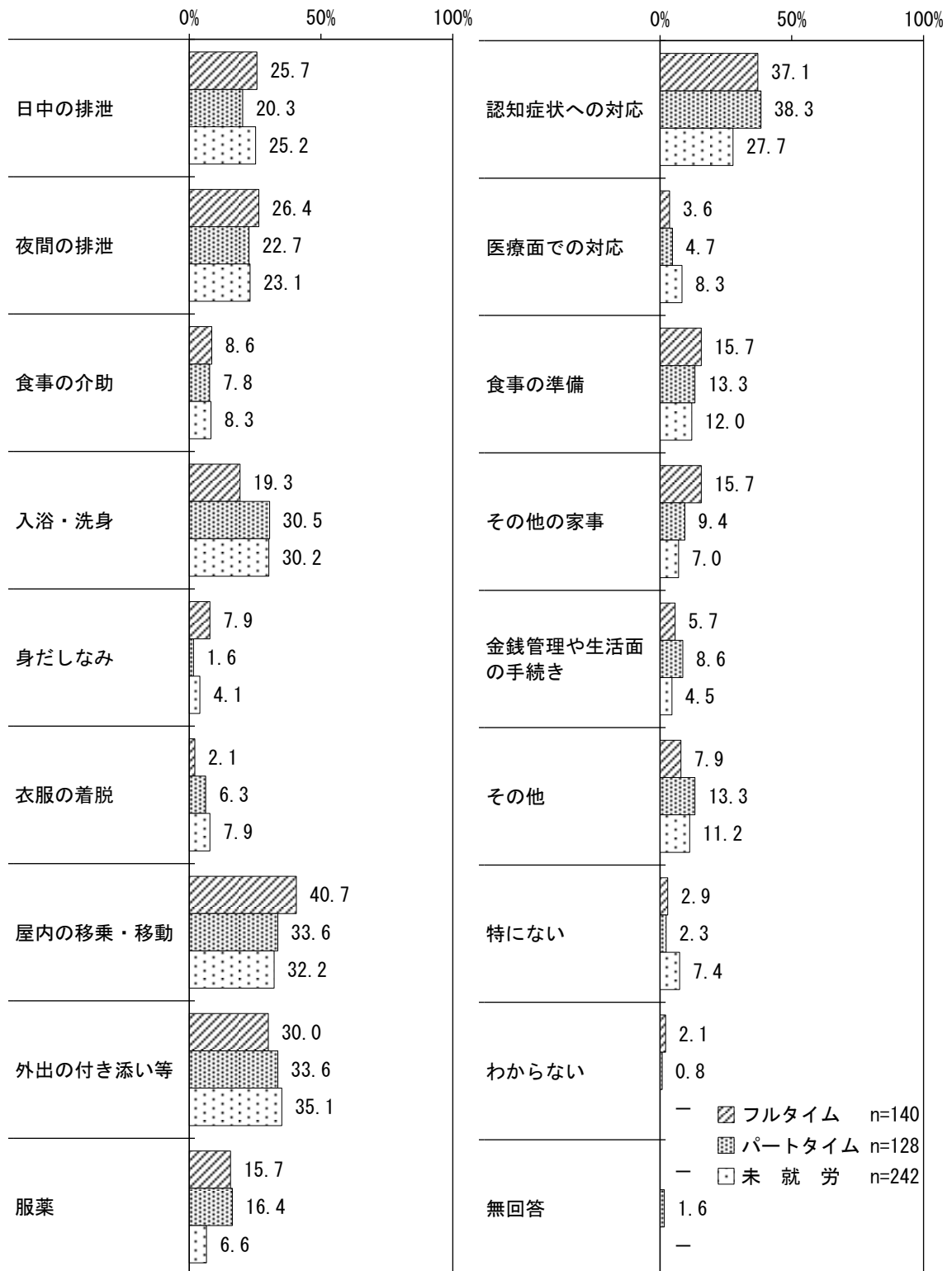
主な介護者が不安に感じる介護等を認知症自立度別にみると、自立・Iでは「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い等」の2項目が40%以上と高くなっています。IIおよびIII以上では「認知症状への対応」が53%台となっています。重度になるほど「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助」などが高く、軽度なほど「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い等」などが高くなっています。

図表2-29 介護者が不安に感じる介護等（認知症自立度別、複数回答（3つまで））



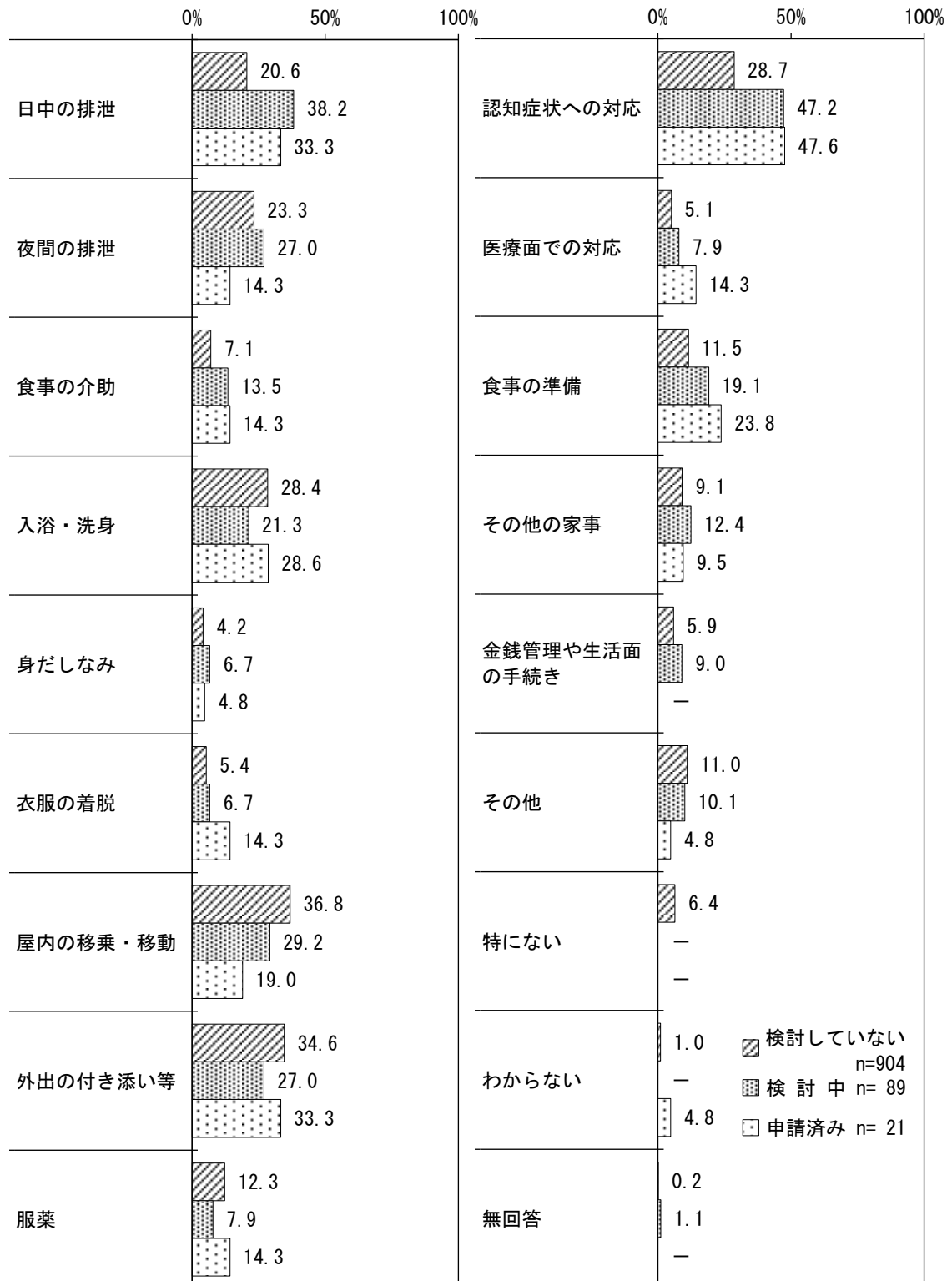
介護者が不安に感じる介護等を勤務形態別にみると、フルタイムの場合は「屋内の移乗・移動」、パートタイムの場合は「認知症状への対応」、未就労の場合は「外出の付き添い等」が最も高くなっています。

図表 2-30 介護者が不安に感じる介護等（勤務形態別、複数回答（3つまで））



介護者が不安に感じる介護等を施設等への入所・入居検討状況別にみると、《検討中》および《申請済み》は、《検討していない》に比べ「認知症状への対応」「日中の排泄」などが高くなっています。一方、《検討していない》が、《検討中》および《申請済み》に比べ高いのは「屋内の移乗・移動」や「外出の付き添い等」などです。

図表 2-31 介護者が不安に感じる介護等（施設等への入所・入居検討状況別、複数回答（3つまで））

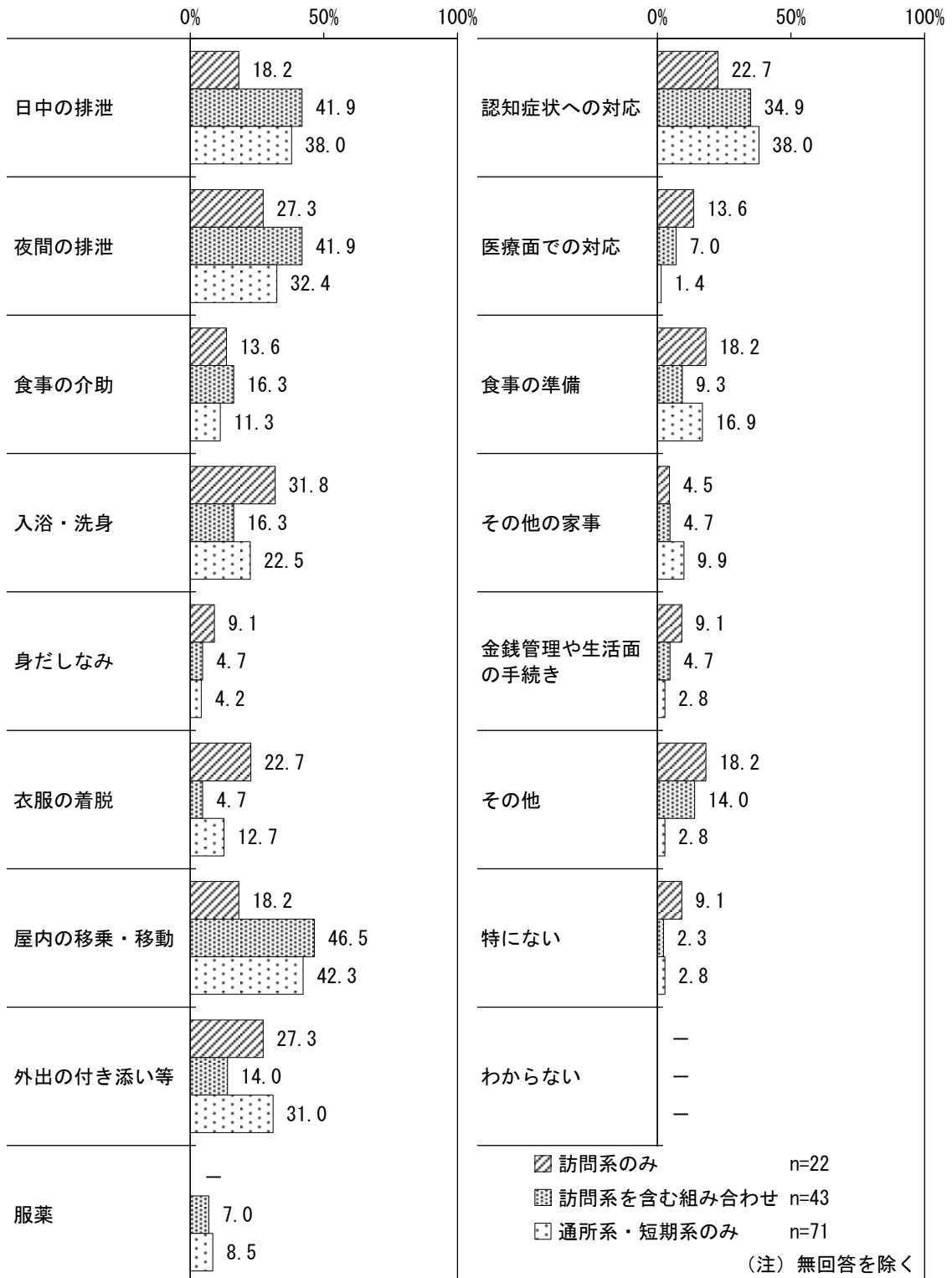


(6) サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせ別にみると、①の場合、《訪問系のみ》は「入浴・洗身」「衣服の着脱」などが、《訪問系を含む組み合わせ》は「屋内の移乗・移動」「日中の排泄」「夜間の排泄」などが、《通所系・短期系のみ》は「認知症状への対応」「外出の付き添い等」など

図表2-32 サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等（複数回答（3つまで））

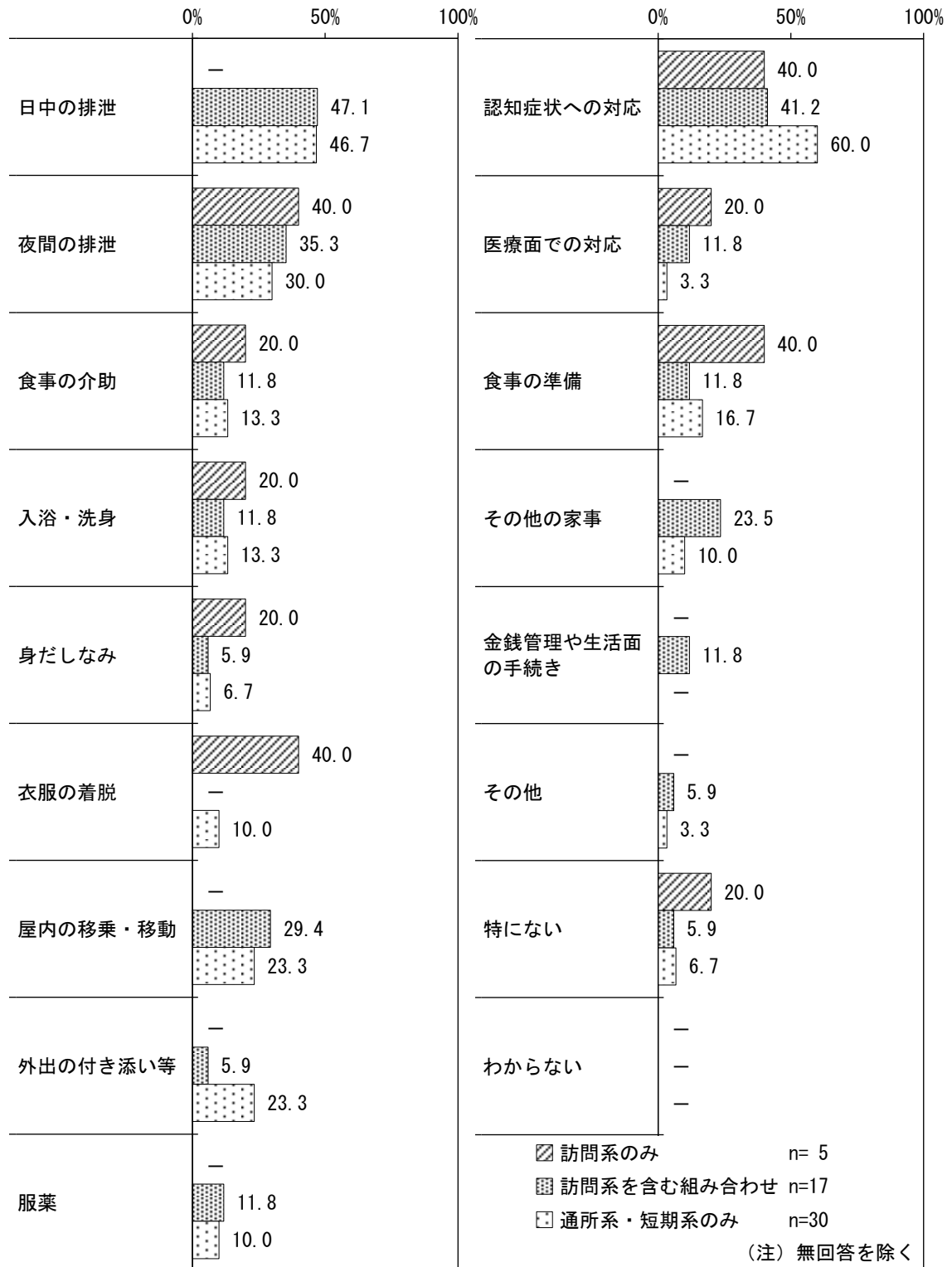
① 要介護3以上



が他に比べて高くなっています。

②の場合、《通所系・短期系のみ》の「認知症状への対応」が60%と突出して高くなっています。

② 認知症自立度Ⅲ以上



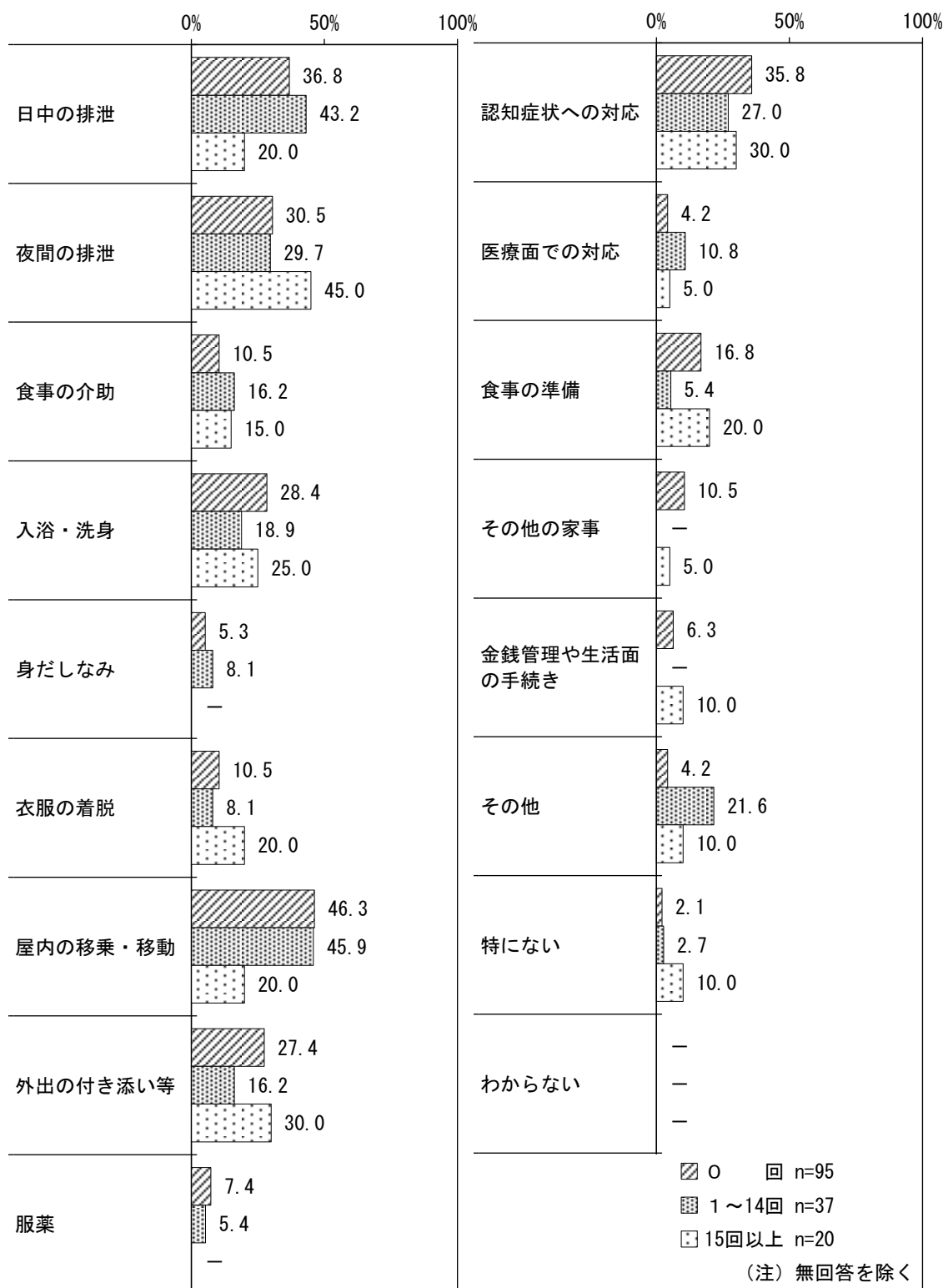
(7) サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

① 訪問系サービス

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、訪問系サービスの利用回数別にみると、①の場合、《0回》および《1～14回》では

図表2-33 訪問系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等（複数回答（3つまで））

① 要介護3以上

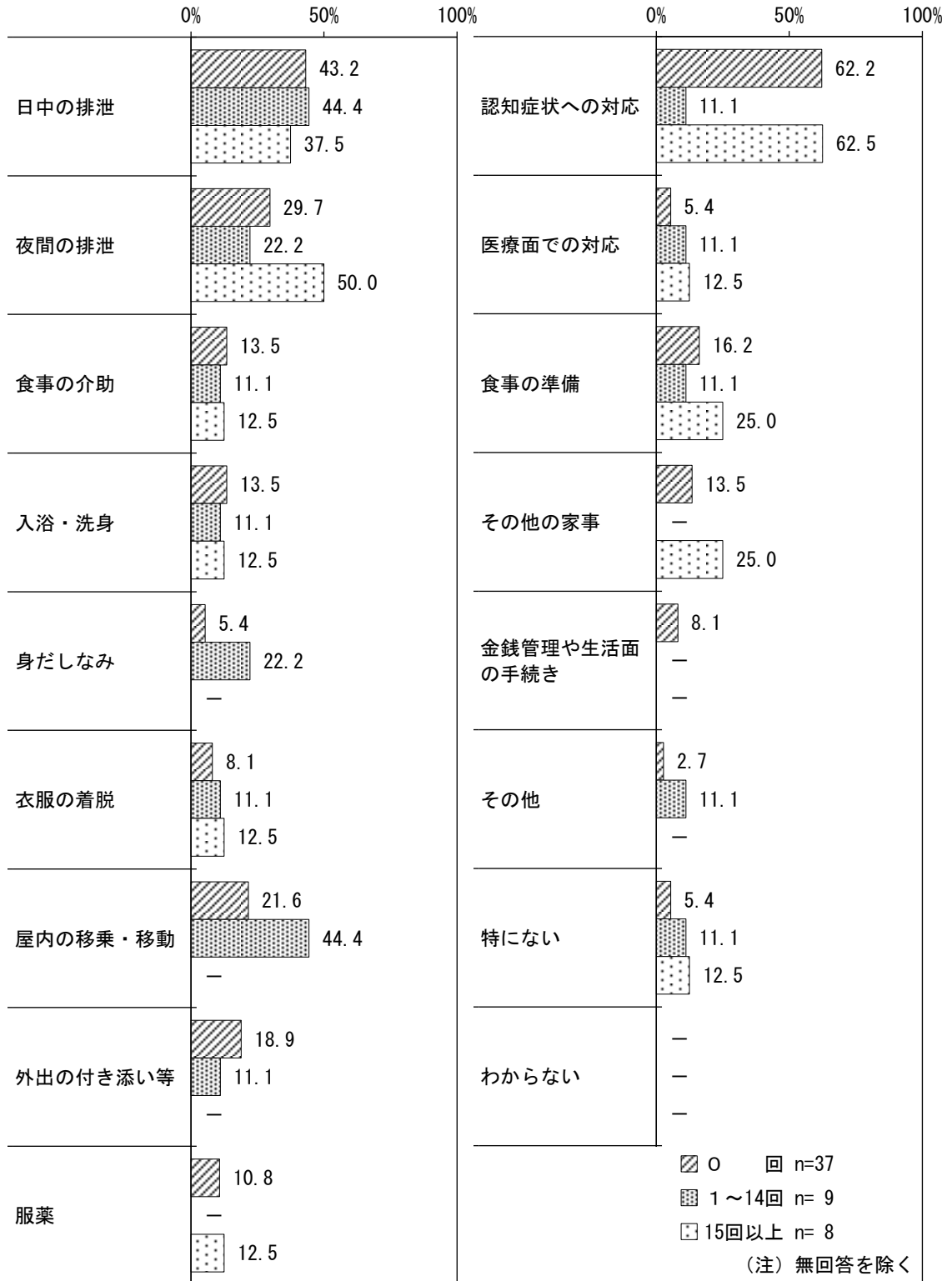


「屋内の移乗・移動」が、《15回以上》では「夜間の排泄」が最も高くなっています。

②の場合、《0回》および《15回以上》では「認知症状への対応」が、《1～14回》では「日中の排泄」および「屋内の移乗・移動」が最も高くなっています。

①②のいずれも利用回数が増えるにしたがい、「日中の排泄」が低くなり、「夜間の排泄」が高くなる傾向があります。

② 認知症自立度Ⅲ以上

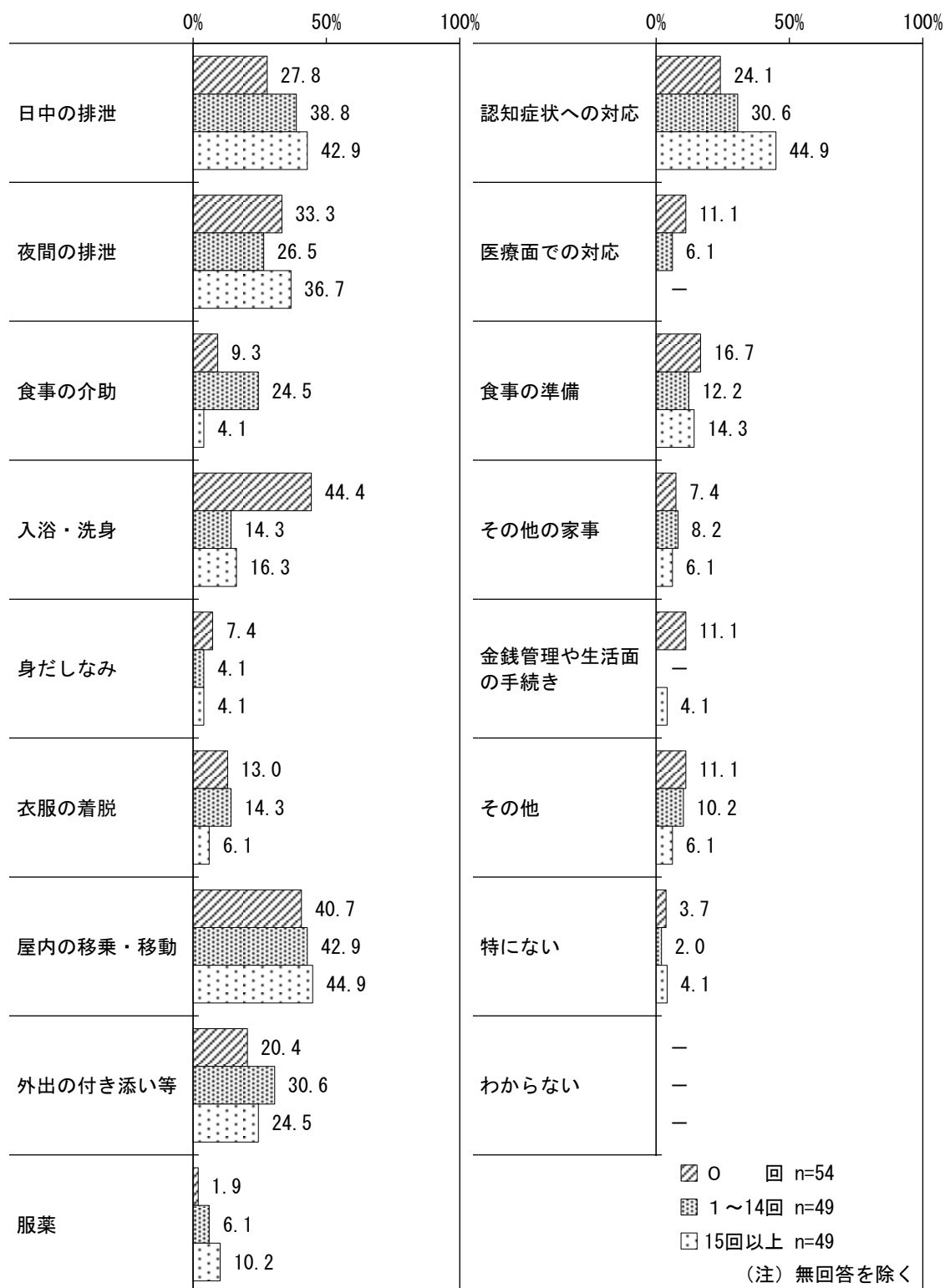


② 通所系サービス

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、通所系サービスの利用回数別にみると、①②ともに、利用回数が増えるにしたがい、「日中の排泄」「屋内の移乗・移動」などが高く、「入浴・洗身」「衣服の着脱等」などが低く

図表2-34 通所系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等（複数回答（3つまで））

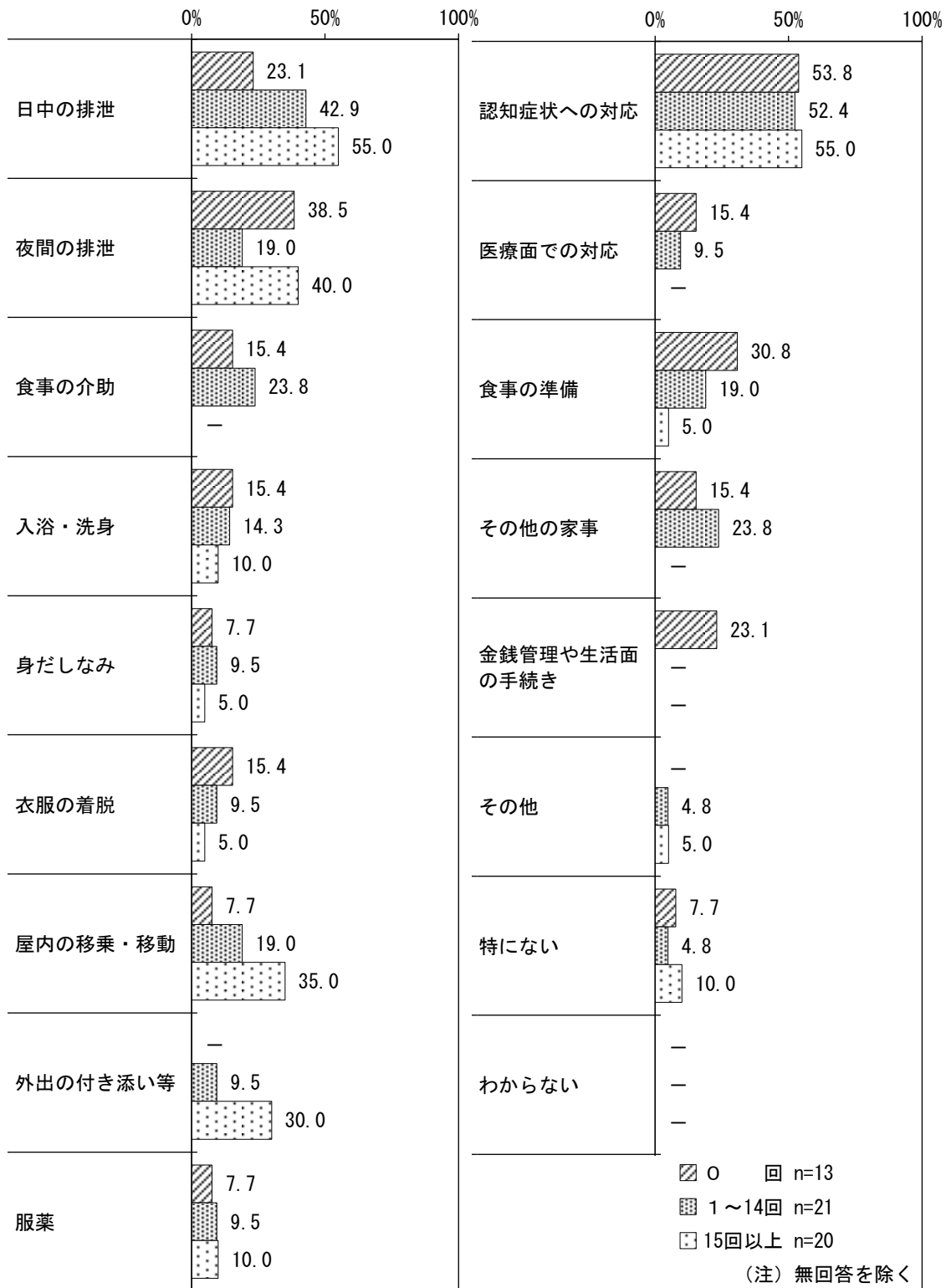
① 要介護3以上



なる傾向にあります。

また、①では「認知症状への対応」が利用回数の増加にしたがい高くなっていますが、②は利用回数にかかわらず50%台の高い率となっています。

② 認知症自立度Ⅲ以上

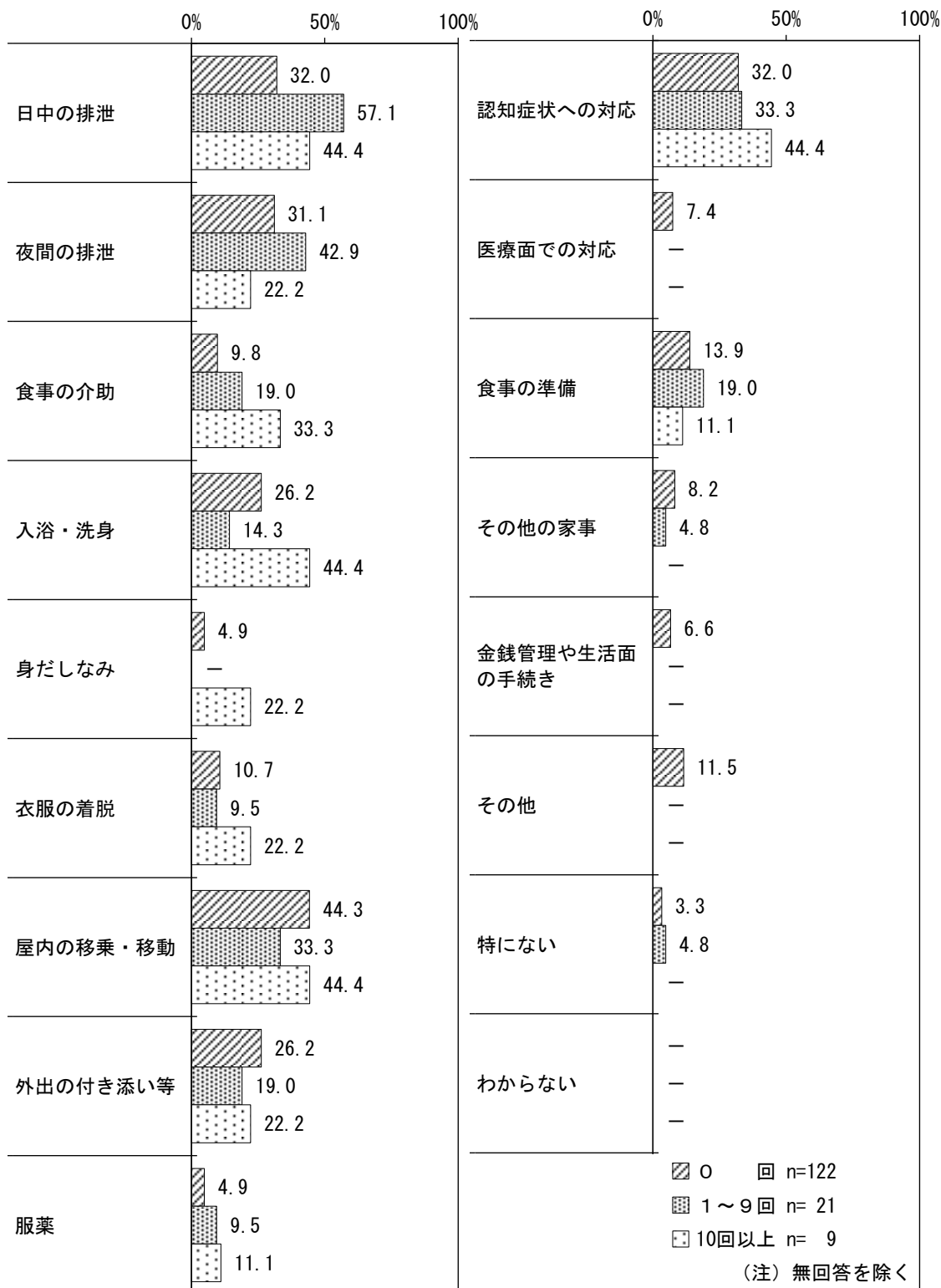


③ 短期系サービス

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、短期系サービスの利用回数別にみると、①の場合、《0回》では「屋内の移乗・移動」が、《1～9回》では「日中の排泄」が、《10回以上》では「日中の排泄」「入浴・洗身」

図表2-35 短期系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等（複数回答（3つまで））

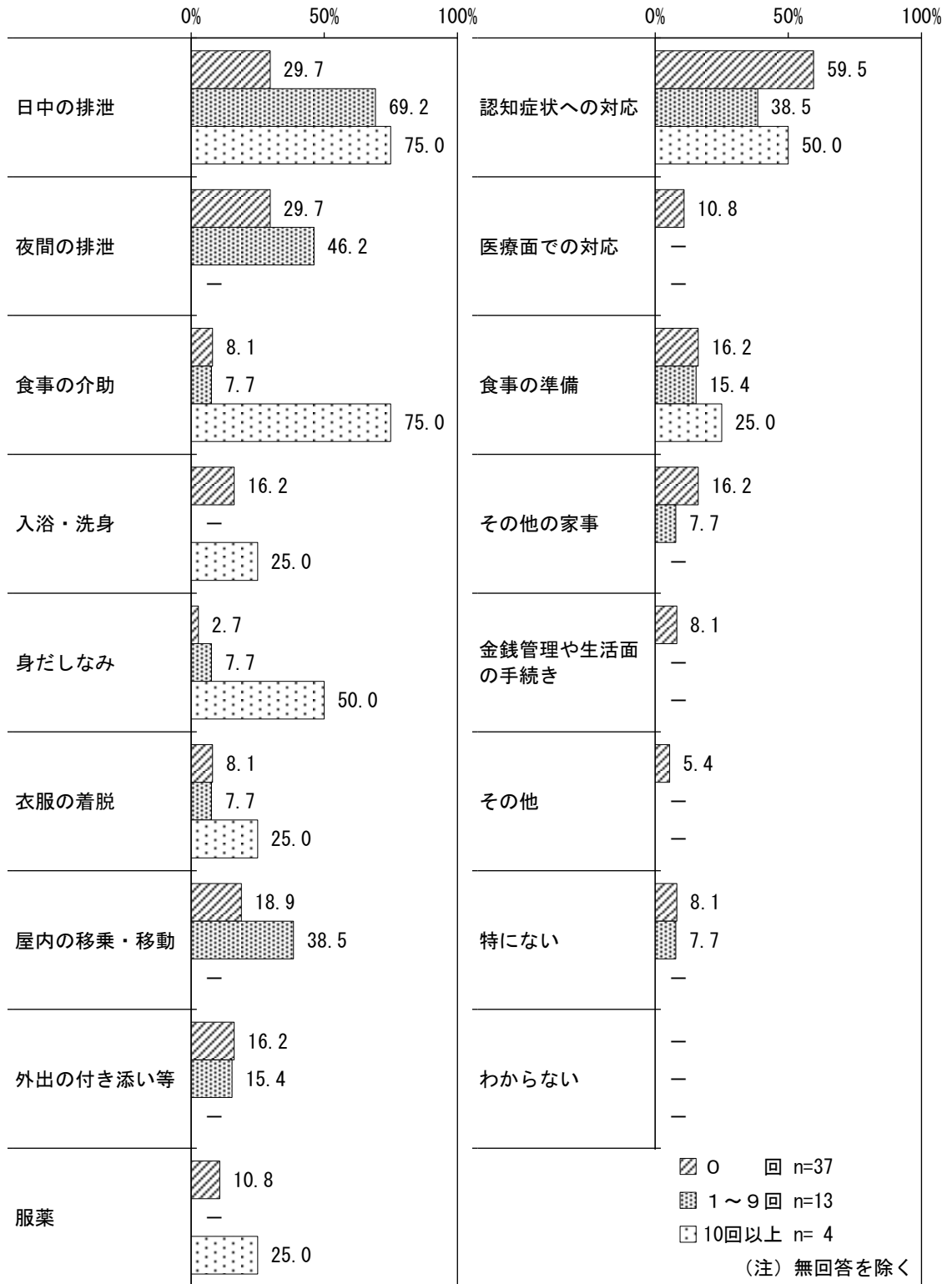
① 要介護3以上



「屋内の移乗・移動」および「認知症状への対応」が最も高くなっています。

②の場合、《0回》では「認知症状への対応」が、《1～9回》では「日中の排泄」が、《10回以上》では「日中の排泄」および「食事の介助」が最も高くなっています。

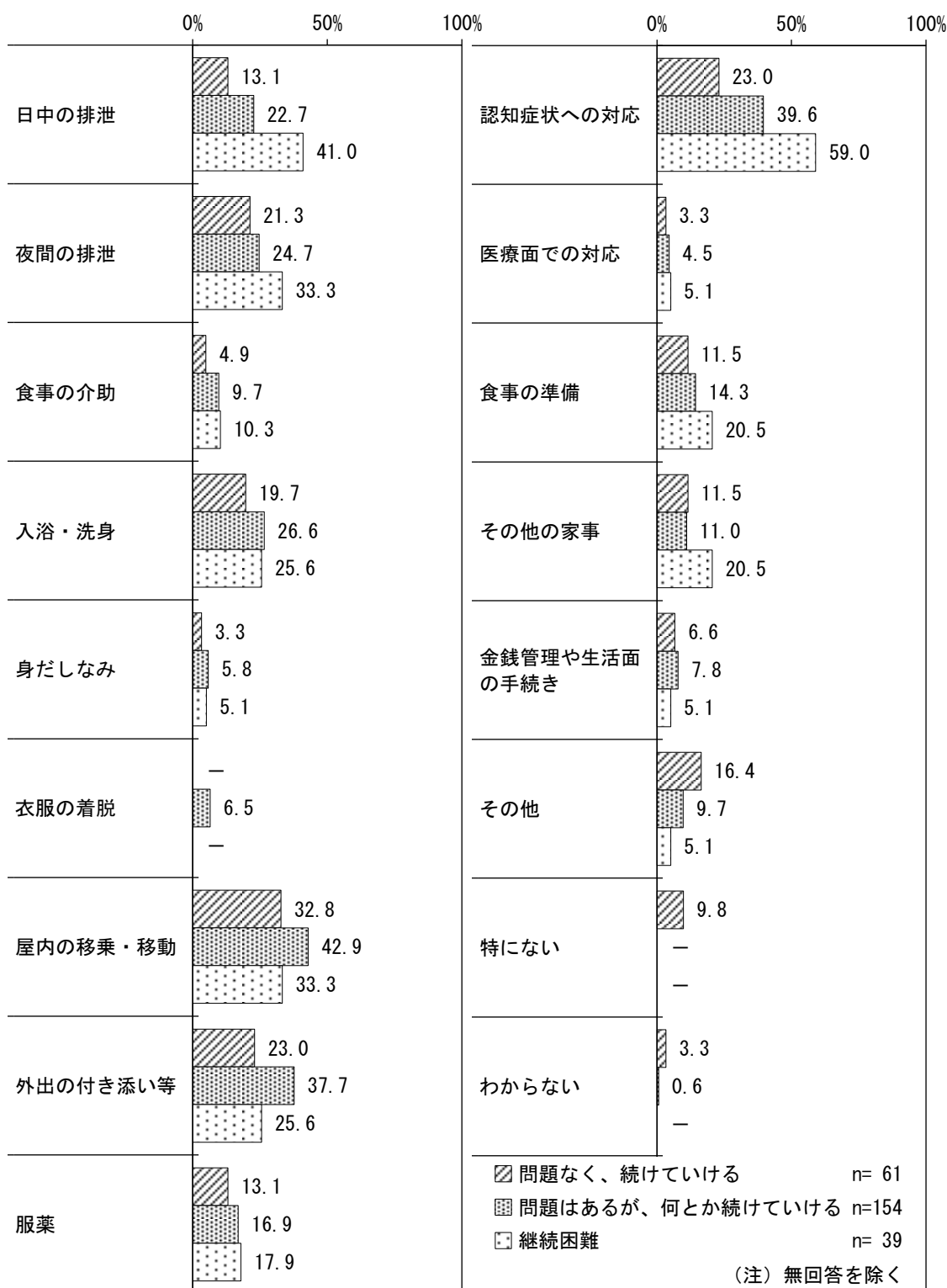
② 認知症自立度Ⅲ以上



(8) 就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等

介護者が就労している人の就労継続の見込み別にみると、就労継続が困難になるにしたがい全般的に不安が高くなる傾向にあります。特に《継続困難》では「認知症状への対応」が59.0%と非常に高くなっています。

図表 2-36 就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等（複数回答（3つまで））



(9) 主な介護者の勤務形態

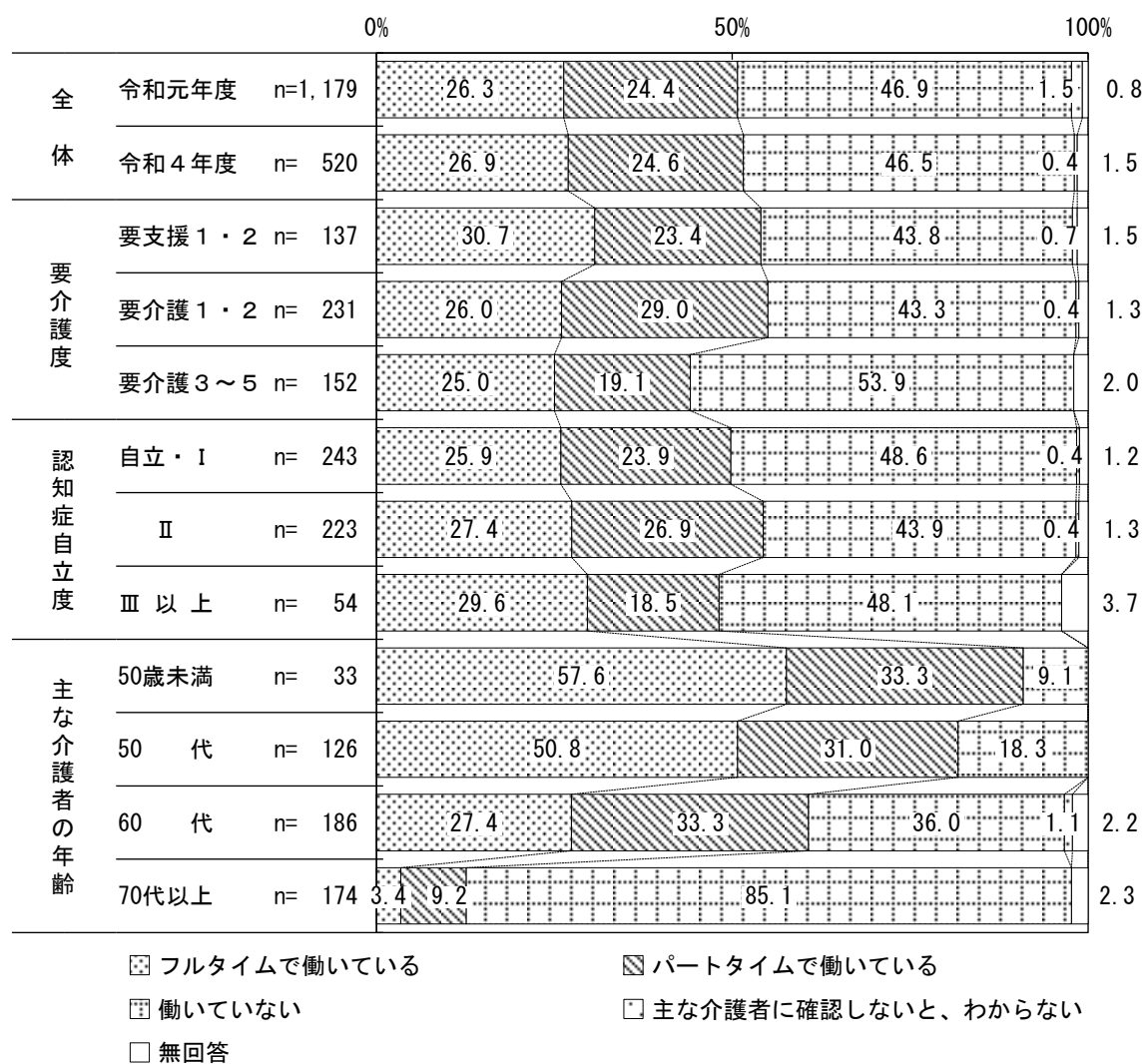
主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」(26.9%)と「パートタイムで働いている」(24.6%)を合計した<働いている>は51.5%を占めています。「働いていない」は46.5%です。令和元年度の調査結果に比べ<働いている>が0.8ポイント上昇しています。

要介護度別にみると、<働いている>は要支援1・2および要介護1・2では50%を超えていますが、要介護3～5では44.1%となります。

認知症自立度別にみると、<働いている>はⅡが54.3%、自立・Ⅰが49.8%と50%前後となっておりますが、Ⅲ以上では48.1%と若干低くなります。

主な介護者の年齢別にみると、50歳未満および50代は<働いている>が80%以上となっており、「フルタイムで働いている」も50%を超えています。

図表 2-37 主な介護者の勤務形態



(10) 働き方の調整

主な介護者が介護をするにあたって働き方についての調整等をしているかたずねたところ、「特に行っていない」は24.3%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が0.7%、無回答が0.4%あり、少なくとも74.6%（100% - (24.3% + 0.7% + 0.4%)）の人は何らかの「働き方の調整をしている」こととなります。令和元年度の調査結果に比べ「働き方の調整をしている」が3.4ポイント上昇しています。

調整の内容としては、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている（A）」が50.4%と最も高く、次いで「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている（B）」が25.7%、「介護のために、A～C以外の調整をしながら、働いている」が13.1%です。

図表 2-38 介護のために働き方を調整しているか（複数回答）

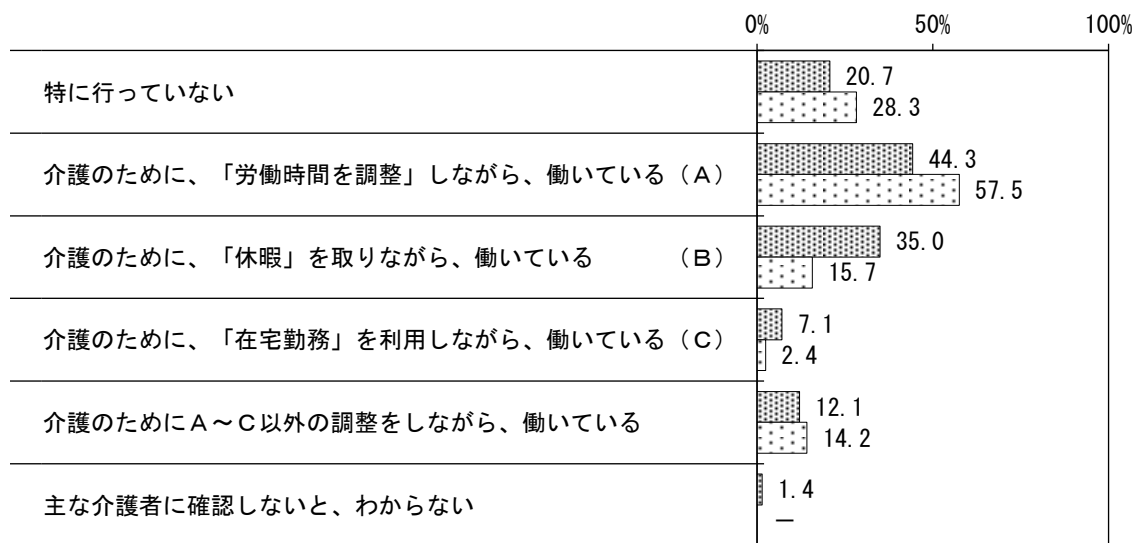
単位：nは人、他は%

区 分		n	特に行っていない	介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている（A）」	介護のために、「休暇」を取りながら、働いている（B）」	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている（C）」	介護のために、A～C以外の調整をしながら、働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全 体	令 元 年 度	598	26.8	47.0	23.2	4.0	8.2	1.3	0.7
	令 4 年 度	268	24.3	50.4	25.7	4.9	13.1	0.7	0.4
世帯類型	単 身 世 帯	78	30.8	42.3	28.2	5.1	14.1	1.3	-
	夫 婦 の み	37	27.0	45.9	29.7	8.1	16.2	-	-
	そ の 他	151	19.2	56.3	23.8	4.0	11.9	0.7	0.7
要介護度	要 支 援 1 ・ 2	74	40.5	33.8	18.9	2.7	12.2	1.4	1.4
	要 介 護 1 ・ 2	127	19.7	59.1	24.4	3.1	11.8	0.8	-
	要 介 護 3 ～ 5	67	14.9	52.2	35.8	10.4	16.4	-	-
認知症自立度	自 立 ・ I	121	31.4	45.5	20.7	3.3	13.2	0.8	0.8
	II	121	19.8	52.9	28.1	5.8	13.2	0.8	-
	III 以 上	26	11.5	61.5	38.5	7.7	11.5	-	-
主な介護者勤務形態	フ ル タ イ ム	140	20.7	44.3	35.0	7.1	12.1	1.4	-
	パ ー ト タ イ ム	128	28.1	57.0	15.6	2.3	14.1	-	0.8

主な介護者の勤務形態別に、詳細をみると、フルタイムではパートタイムに比べ「休暇」や「在宅勤務」が、パートタイムではフルタイムに比べ「労働時間を調整」や「特に行っていない」が高くなっています（図表2-39）。

また、就労継続見込み別にみると、「問題なく、続けていける」人は「特に行っていない」が最も高く、「問題はあるが、何とか続けていける」や「継続困難」な人は「労働時間を調整」が最も高くなっています（図表2-40）。

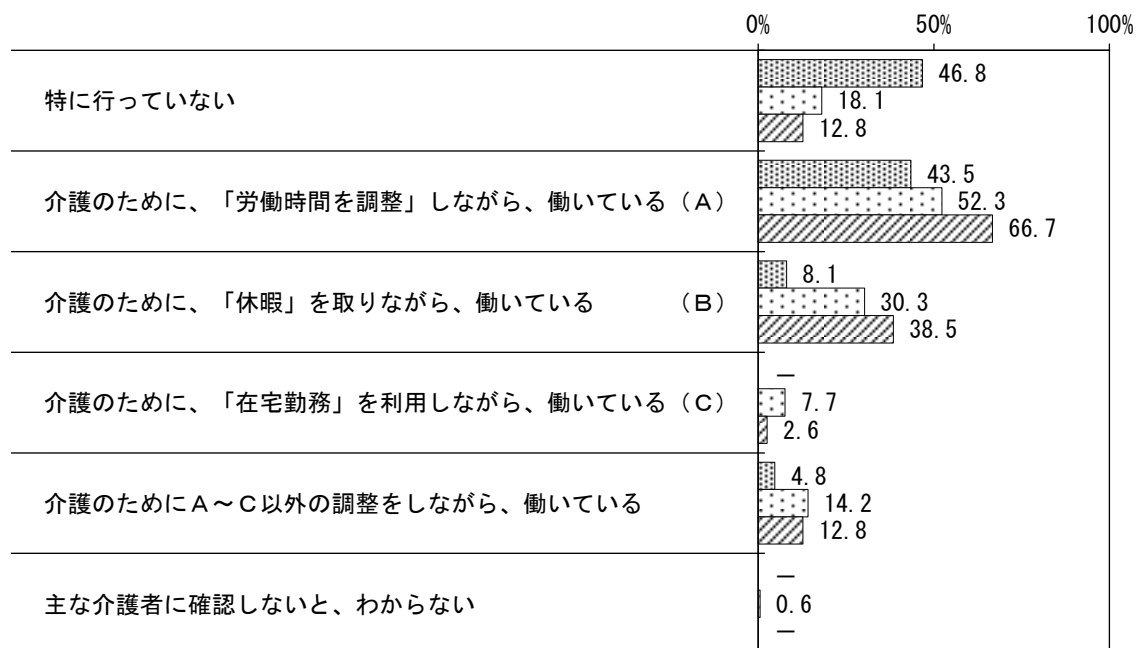
図表2-39 介護のために働き方を調整しているか（勤務形態別・複数回答）



(注) 無回答を除く

フルタイム n=140 パートタイム n=127

図表2-40 介護のために働き方を調整しているか（就労継続の見込み別・複数回答）



(注) 無回答を除く

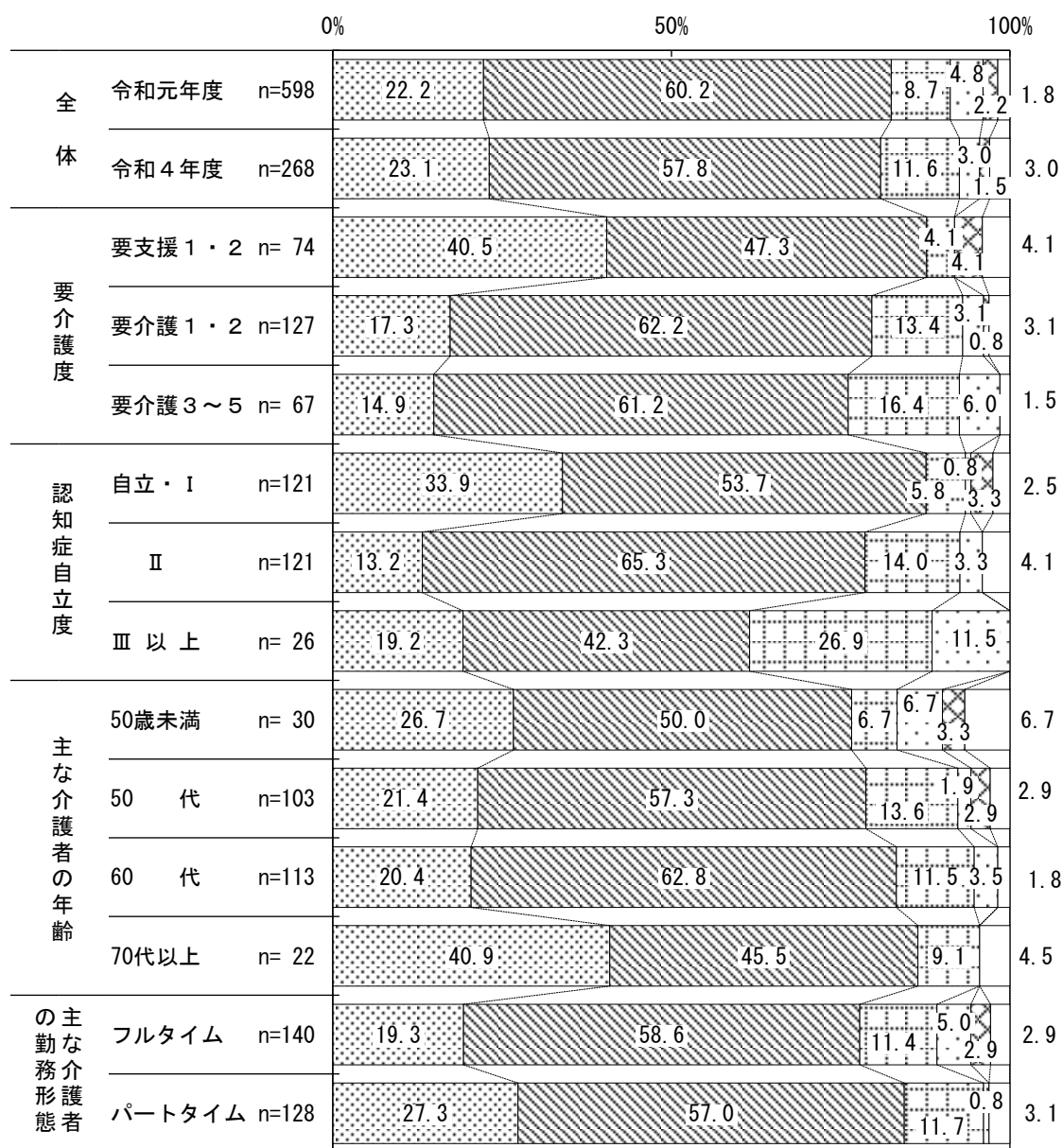
問題なく、続けていける n= 62
 問題はあるが、何とか続けていける n=155
 継続困難 n= 39

(11) 就労継続の見込み

主な介護者が今後も働きながら介護を続けていけそうかをたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が57.8%を占めています。これに「問題なく、続けていける」(23.1%)を加えた<継続可能>は80.9%です。「続けていくのは、やや難しい」は11.6%、「続けていくのは、かなり難しい」は3.0%あり、これらの合計<継続困難>は14.6%です。令和元年度の調査結果に比べ<継続困難>が1.1ポイント上昇しています。

認知症自立度別にみると、Ⅲ以上では<継続困難>が38.4%です。

図表2-41 働きながら介護を続けていけそうか



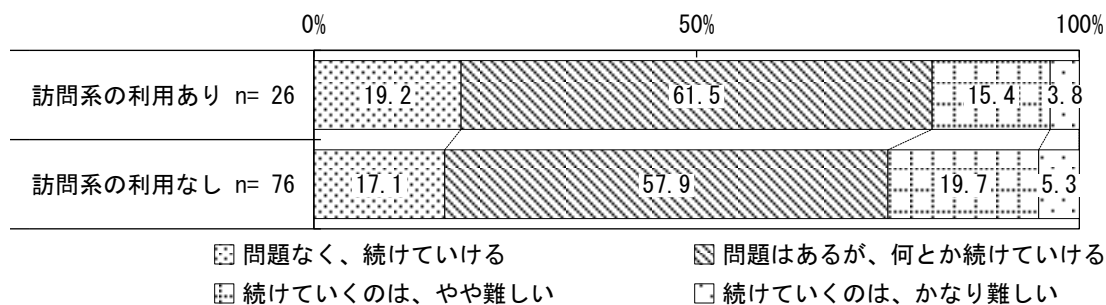
- ☑ 問題なく、続けていける
- ☑ 問題はあるが、何とか続けていける
- ☑ 続けていくのは、やや難しい
- ☑ 続けていくのは、かなり難しい
- ☑ 主な介護者に確認しないと、わからない
- ☐ 無回答

(12) 訪問系サービス利用の組み合わせと就労継続の見込み

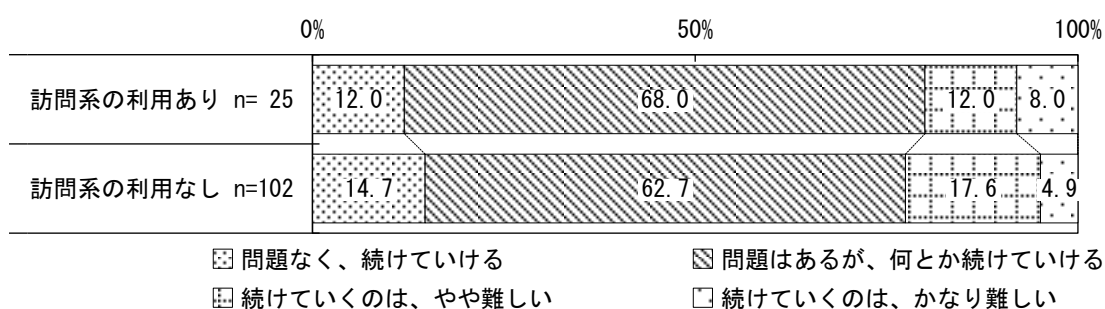
介護者の就労継続の見込みを、①要介護2以上、②認知症自立度Ⅱ以上に分けて、訪問系サービス利用の有無別にみると、《訪問系の利用あり》の〈継続可能〉が《訪問系の利用なし》に比べ、①の場合は5.7ポイント、②の場合は2.6ポイント高くなっています。

図表2-42 サービス利用の組み合わせと就労継続見込み

① 要介護2以上



② 認知症自立度Ⅱ以上



(注) 無回答を除く

Ⅲ 調査票

基本調査項目のみ

在宅介護実態調査 調査票

被保険者番号[_____]

【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】（複数選択可）

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

1. ない
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問5を回答し、調査は終了です

問3～問5を回答し、B票へ

問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

問4 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

●ここから再び、全員に調査してください。

問5 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

1. 入所・入居は検討していない
2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

●問2で「2.」～「5.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いしてください。

●「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしてください(ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。

B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

1. フルタイムで働いている
 2. パートタイムで働いている
 3. 働いていない
 4. 主な介護者に確認しないと、わからない
- 問2～問4へ
- 問4へ

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

●ここから再び、全員の方にお伺いします。

問4 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

在宅介護実態調査報告書

令和5年3月

発行 桑名市

編集 保健福祉部 介護高齢課

〒511-8601

桑名市中央町二丁目37番地

TEL 0594-24-5104

FAX 0594-27-3273